

計 報

謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

(平成7年4月から平成8年3月までのご報告のあった方々)

氏 名	(回)	逝去年月日	氏 名	(回)	逝去年月日	氏 名	(回)	逝去年月日	氏 名	(回)	逝去年月日
小川 三郎	(22)	平. 7. 11.	嶋田慎一郎	(31)	平. 7. 6. 2	新井 貞男	(37)	平. 8. 1. 7	伊東喜与人	(46)	平. 7. 3. 25
小松 高夫	(23)	8. 2. 16	林 俊夫	(31)	7. 7. 7	牛山 四郎	(37)	7. 10. 7	伊藤 礼吉	(46)	7. 7. 16
両角 竜雄	(23)	7. 10. 29	浜 茂喜	(32)	7. 7. 20	久保田元次	(37)	7. 6. 25	矢嶋 淳	(46)	7. 8. 7
唐沢 利一	(25)	昭. 59. 8. 7	宮坂 正男	(32)	1. 2. 26	林 武	(38)	7. 10. 2	増沢 守	(47)	7. 8. 5
木川 養吉	(25)	平. 8. 1. 16	吉田 良雄	(32)	7. 8. 19	野沢千代伝	(39)	7. 6. 26	植松 典昭	(47)	7. 12. 27
小松 直一	(28)	7. 12. 8	小口 健二	(33)	7. 9. 18	金原 広	(40)	7. 9. 4	金沢 光雄	(49)	8. 2. 26
中谷 千章	(28)	7. 4. 21	長崎 春男	(33)	7. 9. 29	小池 洋八	(41)	7. 4. 17	両角 一保	(49)	
宮坂 義一	(28)	7. 9. 11	藤森 秀雄	(33)	7. 7. 3	小坂 三郎	(41)	7. 5. 11	渡辺 道夫	(49)	7. 5. 29
矢崎 芳郎	(28)	5. 9. 3	宮坂 亨	(33)	7. 7. 2	小坂 四郎	(41)	7. 5. 8	伊東 克郎	(50)	7. 8. 6
加藤 博行	(29)	7. 8. 29	芦沢 秀也	(34)	7. 3. 2	高木 栄一	(41)	8. 3. 15	小松 豊三	(51)	7. 5. 29
木曾 昌人	(29)	7. 4. 16	今井 大	(34)	7. 5. 12	花岡 信平	(41)	7. 6. 6	矢島 信男	(51)	7. 10. 14
木村 幹雄	(29)	7. 2. 21	小林 亀郎	(34)	7. 11. 9	藤森 光久	(41)	8. 1. 28	飯田 仁米	(58)	7. 1.
林 一郎	(29)	7. 12. 11	小林 尋人	(34)	8. 3. 26	宮原 博志	(41)	7. 7. 22	池上 典男	(59)	8. 2. 24
藤森 安夫	(29)	7. 9. 2	菅沼麒一郎	(34)	7. 3. 29	河西 稔	(43)	7. 7. 7	守矢 泰明	(60)	7. 5. 3
宮金三郎	(29)	7. 9. 6	山田 達夫	(34)	7. 7. 10	小松 源久	(43)	7. 10. 16	浜 昭勇	(61)	6. 5. 27
山田 亨	(29)	7. 11. 25	長谷川寿博	(35)	7. 6. 15	畑 稔	(43)	6. 11. 25	鶴巻 康彦	(66)	2. 5.
久保田夏樹	(30)	8. 2. 21	上田 晴一	(36)	7. 10. 7	浜 博男	(43)	6. 12. 19	藤森 茂雄	(66)	8. 1. 8
功力 好郎	(30)	7. 4. 9	植松大六郎	(36)	8. 2. 23	藤原 光明	(43)	7. 9. 24	小口 敏雄	(70)	6. 11. 16
						笠井 公衛	(44)	7. 4. 29	真島 照之	(84)	昭. 63. 9
						小宮山一男	(44)	8. 1. 21	関 展良	(85)	平. 8. 3. 11
						高橋 浩	(44)	8. 1. 24	真島 章	(93)	8. 3. 18

事務局だより

★母校創立百周年の各種記念事業は、全て成功のうちに終えることができました。会員の皆さんのご支援ご協力のおかげと心から感謝申し上げます。大事業を終えてホッと一段落というところですが、まだ名簿や百年史などの問い合わせ・注文・発送・集金等に追われております。

★前号でもお願いしましたが、新制高校以降の同窓生で、校舎改築時にご寄付を頂いてない方に終身会費をお願いしております。多数の方からご送金頂き有りました。多謝の旨を申し上げます。この件について、東京支部の終身会費と混同されている方も多数おられるようですが、各支部の会計は独立採算で、本部とは別建てですのでよろしくご理解下さい。

★百周年記念事業実行委員会報告にも記されておりますが、昨夏発行してお送りした「会員名簿」の代金をまだ送って下さらない方が500人ほどおります。お忘れの方、記念総会の会費と混同されている方、すでに送ったのに再請求されたとお怒りの方といろいろのケースがあらうかと思いますが、ぜひお早くご送金下さるようお願いいたします。その際郵便局でよこす「払込票兼受領証」のコピーを必ず保存しておいて下さい。トラブル発生を防ぐ最良の手段です。

★昨年度中に寄贈を受けた図書は次のとおりです。有り難うございました。

竹内丈夫(21回)「ああ博浪の槌とりて」(五味幸男(44回)著)
「角間新田に関する調査」藤森光蔵著
大沢一雄(38回)「英語学概論」
藤森耕介(40回)「ある学徒出陣の記録」
「藤森省吾先生と泉野教育」
藤森省吾先生を偲ぶ会編

藤森治幸(40回)「漢詩への招待」漢詩考
宮坂修吉(47回)「建築デザイン」
野沢克郎(60回)「遠く砕く日」私の満州
丸茂和夫(61回)「黄菅咲く山」
—人生舞灯籠—
有賀勝の資料を保存する会「有賀勝・芳枝—その愛と闘い」宮下与兵衛編
窪田哲雄氏「アルバム」
横内慶八郎氏「国際史学入門」
—異文化理解と日本の復権—

★事務局メンバー

(9:30~4:00 在室、土曜日一休み)

事務局長 小口祐一(47回) 講師
書記 木下芳英(48回) 講師
係主任 松木代治(69回) 教諭
係 今井保寿(62回) 教諭
係 林 隆憲(68回) 教諭
係 河西永一(76回) 教諭
係 茶城啓二(86回) 教諭

TEL 0266-58-0356

FAX 0266-57-0348

編集後記

同窓会報の発行責任者を引受け1年間ようやく目処が立つ状態になりました。

お忙しい立場の先輩の皆さんをはじめ多くの方々から快く御協力頂きました。紙面をお借りして御礼申し上げます。

会員名簿の充実により発送部数も増加し郵送料金も無視でなくなりました。一部あたりの郵便料金据置の工夫も必要になり、内容の変更は極力避け今年A4判、横組のスタイルに変更致しました。支部報告を一覧表形式にすることに抗議を受けましたが1/11支部でしたので形式の変更をしました。

尚、63回、64回生が同窓会開催幹事学年の記念として実現した校旗の共同寄贈の記事を用意して貰いましたが、事情により掲載出来ませんでした。

清陵同窓会報

自反而縮雖千萬人吾往矣

第22号 発行：諏訪清陵高校同窓会 〒392諏訪市清水1-10-1 編集：会報編集委員会、第63回生(昭和31年入学)

新たなる世紀へ

百周年記念事業
部 会 報 告

平成7年10月8日、我々の母校諏訪清陵高等学校は創立百周年の記念式典を挙行した。千人の在校生と二百人におよぶ来賓と職員とによって、厳粛のうちにも慶びに満ちた式典であった。同窓会はこの記念式典に実行委員の一員として参画し、小菅同窓会長が実行委員長、松下清

陵高校長と五味PTA会長が副実行委員長をつとめた。この日を記念して、同窓会関係では、東海支部が織部焼き陶額と黄瀬戸大杯「諏訪湖」、43回生がトレーニングセンター用の時計2基、50回生互助会が宮下琢郎(25回)作水彩画「秀嶺」、58回生が同年の木之下晃製作写真9点「世

界の音楽家」、62回生が同年の藤森汎作彫像「蒼風」を母校に贈った。このいわば学校の公式の記念式典から約一か月後の11月5日、同窓会による母校創立百周年記念総会および祝賀会が、清水ヶ丘を揺るがすほど盛大に行われた。



平成8年度定期総会案内

1. 日 時 6月23日(日) 午後1時より
(受付 正午より)
1. 場 所 諏訪シティホテル成田屋
1. 議 事
(1) 平成7年度会務・決算・特別会計報告
(2) 百周年記念事業・記念事業関係特別会計報告
(3) 平成8年度事業計画・収支予算案審議
(4) 役員改選

1. 記念講演 午後3時より
演題「釣バカ日誌と清陵高校」
小学館編集部 武居 俊樹(56回生)
演題「釣バカ日誌と私」
釣バカ日誌作者 やまさき十三氏

1. 懇親会 午後5時より
於 諏訪シティホテル成田屋
1. 会 費 5,000円
会員券はあらかじめお求めいただくか、(会員券は当番幹事63・64・73・83回生が販売しております)当日の受付で。

会員多数のご来会をお待ち致します。
諏訪清陵高等学校同窓会
会長 小菅 重男
(当番幹事63回生・次期当番幹事64回生
サブ幹事73・83回生)

諏訪清陵高校OB・OG

「諏訪湖一周マラソン」のご案内

本年も恒例の湖周マラソンを下記により、母校の諸君に加えてもらい実施致します。多数の皆さんの参加と応援を期待し御案内とします。

1. 日 時 10月25日(金) 女子8時40分、男子9時
2. コース S旧道高国寺 C高島公園 約23km
3. 受 付 清陵会館 OB控室 午前7時30分よりゼッケン受取り後出発点へ。終了後懇親会
4. 参加費 3000円
5. その他 健康診断もお忘れなく。雨天の場合受付時に判断

清陵湖周マラソンOB会

会 長 井上彦次(42回)
事務局 牛山 孝(59回)
問い合わせ先 原 英充(65回) Tel 0266-58-3547
会 計 唐沢千明(76回)

・総務部会

平成2年度の定期総会において、来る平成7年の母校創立百周年には総力を挙げて記念事業に取り組むこと、早速計画委員会をつくることが決議され、校舎改築記念のときに中心となった50回から56回生を部会長にして、その下の実行部隊には57回から63回生の7学年に当たってもらうこととなった。計画委員会ではまず基本姿勢を練り上げ、百年の節目が次なる百年への躍進のパネとなるよう同窓会の一層の団結を図ることと、この百年間清陵を支えてきてくれた地域の人々への感謝の気持ちを表明できるよう考えること、派手過ぎずまた地味すぎないものにすること等をふまえて、各種の行事・イベントを企画し、まず全国の歴史ある高校へ百周年等の記念行事についてのアンケートを出して参考にした。

翌3年の定期総会において、基本理念(会報17号参照)と、外向け・内向け・その他の3部門からなる事業原々案、さらに名簿委員会と百年史編集委員会を設置することが了承された。4年の定期総会においては事業計画の概要が示され、予算の概要も承認された。こうして創立百周年記念事業実行委員会が組織され、本格的な活動に入った。実行委員会委員長に同窓会長、副委員長には3名の副会長が当たり、実行委員会の各部会長・委員長には、発展的に解消した計画委員会のスタッフが当たることになった。

・記念事業運営部会

11月5日(日)午前11時、清水ヶ丘の母校に集まった同窓生は約1200人(申込者1300人)。岩崎信子(62回)信越放送アナの司会で、宮坂久臣副会長(49回)の開会挨拶、小菅重男実行委員長(45回)の挨拶に始まり、松下清陵高校長の来賓祝辞の後、小山良治東海支部長(42回)を議長に選んで、平成6年度の会務報告および決算報告、特別会計(会報、会館維持、百周年記念事業、百年史、ビデオ、名簿)の決算と中間報告、7年度の事業計画と予算案が審議され、最後に百周年記念事業の中間報告が総務部会長および各特別委員長によってなされた。いずれも満場一致で異議なく可決された。

議長退任の後、同窓会活動に貢献された方々、百周年記念事業の目玉のトレーニングセンター建設に関して渋谷建設他、同窓会の今日を築いて下さった山田六一元会長(35回)はじめ24名の元役員、古原源之助元名簿委員長(42回)、鎮魂曲作曲者藤森一男校歌収録委員長(42回)の28名の方々に感謝状を贈呈した。代表の山田前会長から謝辞が述べられ、その後来年度当番の63回生達が壇上に登り、松木義文学年幹事から挨拶と来年への決意表明があつて、小平祐副会長(42回)の

閉会挨拶によって総会が終わった。

続いて、中村利彦顧問(78回)および美濃羽有理さん(100回)の指揮で在校後輩の吹奏楽部員による祝典行進曲等が演奏され、後輩達の思いもよらない音楽の実力に、特に年寄りの会員達は感嘆の拍手を惜しまなかった。

1時半から待望の祝賀会が始まった。有賀総務部会長(50回)の開会挨拶、持田明夫前校長による来賓挨拶の後、支部長さん達によって元気よく鏡割りが行われ、中山茂元校長の音頭での乾杯で祝宴に入った。遠来の友と久闊を叙し、少年の日に戻って懐かしい清水ヶ丘の思い出を語り合う喜びで、会場には笑いが一杯であった。正面の大スクリーンに思い出の校舎などが映し出され、その上を流れる校歌の歌詞に合わせて、日本一長い校歌が声高らかに歌われ、石井睦蔵前会長(37回)の音頭による万歳三唱、淵上良子副会長(56回)の閉会挨拶で慶びの一日は終わった。3時30分であった。会費5,000円、記念品は木製印章セット、長野日報社作製の小冊子と、岡谷市民新聞社作製の清陵100周年特集号合本新聞綴、信濃毎日新聞の11月5日記念特集号も全員に配られた。

・施設環境整備部会

百周年を記念して後輩に残す施設は、最新の機器を備えたトレーニングルームと決まり、大小体育館の間に60坪ほどのフラットハウスを建てることとなった。設計はアロー設計他、建設は渋谷建設他、予算約3,500万円で、平成7年3月1日地鎮祭が行われ、6月末に完工。名称は第二校歌二番の「高き志を身に負ひて」から「高志館」と決まった。文武両道を標榜する清陵高校にふさわしく、伝統をよりよく継承できるたくましい若者に育って欲しいという望みを託したもので、7月から使用を開始した。

以前から計画されていた創刊以来の学友会誌と三沢文庫の資料集の散逸防止は、光ディスクにファイリングすることになり、丁度、前の機器も古くなってきていたので、新しいウィンドウズ対応のコンピュータとイメージスキャナーを入れて、資料のMD化を計った。とりあえず学友会誌全巻をスキャナーで読みとり、原資料は厳重に保管することとした。なお今後は、三沢文庫の資料の中でも緊急度の高いものから順次MD化してゆく予定である。

記念中国旅行に際して、原陽県の博浪公園に桜を植樹する話が出、その仕事をこの部会で請け負った。3月には苗木200本が植えられ、5月の校歌碑除幕の際にはすくすくと育つ苗木が訪中団を迎えてくれた。

・文化活動部会

清陵の百周年にふさわしい講師を招いて、質が高くかつ人々の興味をそそる講演をという欲張った希望を満たすため、講師の人選には大変苦勞をした。幸い文芸春秋社の白川浩司氏(64回)のついで、芸術院会員・文芸評論家の江藤淳先生をお呼びでき、11月4日(土)午後2時より、諏訪市文化センターにおいて「漱石とその時代」と題する講演を聞くことができた。明治44年に鏡子夫人同伴で諏訪に講演に来たこと(古い漱石全集の年表では諏訪中学で講演をしたと誤記されていた)から話が始まり、胃潰瘍を病んだ後の晩年の漱石の心意気や、彼の中に江戸からつながっている文化の伝承、遊び心といってもよいような余裕と文化の問題など蘊蓄を傾けての話し、1000名に上る聴衆は深い感銘を覚えた。

これより一月前の10月7日(土)午後2時より諏訪市駅前市民会館において、NHK解説主幹の小林和男氏(62回)による講演会も開催した。7年の4月までNHKモスクワ支局長をしておられた同氏が、学校の式典で生徒に記念講演することになり、1日だけ時間の都合がつくということで、急遽一般向けの講演をその前日をお願いしたものである。「ロシアから見た世界と日本」の演題で、長年のロシア生活からのロシア人の気質やものの見方、政財界の動向、注目すべき人物たちのエピソード等々興味深い話を700人の聴衆が聞いた。(両会場とも入場無料)

美術展は、7月20日から8月27日までの約40日間、マルク・シャガール展を開催した。1887年～1985年のシャガールの生涯は母校の百年とほぼ重なる上、その華やかな色彩感覚と詩情豊かで幻想的な愛の世界は日本人特に若い人々に大変好まれている作家であるということで、飛鳥建設他とプチミューゼ所蔵の作品を展覧した。諏訪市の北沢美術館2階に油彩と水彩画約40点、また宮坂久臣副会長の好意で諏訪信用金庫本店ギャラリーのこけら落としを兼ねてリトグラフ「ダフニスとクロエ」の連作40点という豪華な展覧会となった。北沢美術館は普段と同料金の800円(郡下の高校生には無料招待券を発行)、信金の方は無料で公開し、両会場合わせて約6万人が入場した。なお7月20日夜にはオープニングパーティー、21、22日両夜にはトワイライト鑑賞会と銘打って、ワインをたしなみ音楽を聞きながら、という大変珍しくまたシャレた試みも好評を博した。

各種の百周年記念行事の掉尾を飾ったのがバンベルク交響楽団の演奏会であった。11月10日午後6時30分から2時間余、岡谷カノラホールの1300に及ぶ聴衆は重厚な楽の音に酔

いしれた。ベートーベンの序曲「レオノーレ」第3番に始まり、山崎伸子のハイドンのチェロ協奏曲第1番は端正の中に

も華のある好演であった。休憩後はメインのベートーベンの交響曲第5番「運命」で、指揮者ホルスト・シュタインの大変な熱演にまさに割れんばかりの拍手であった。演奏会終了後、岡谷パークホテルで関係者による慰労打ち上げパーティーを開き、楽団から5人の方も出席して、古き良き時代のウィーン情緒たっぷりの曲を聞きつつ歓談した。なおこの日の演奏に先だって、普段あまり外などへ出られない下諏訪の花田養護学校の生徒達に、シューベルトの「鱒」をはじめとする美しいカルテットの慰問演奏を贈った。

・ビデオ委員会 [製作担当—東京支部]

片野満氏(56回)の演出により、岩波映像関係のスタッフと中央企画他との協力で、諏訪の美しい四季の移り変わりや清陵の現在と過去を、バックに流れる校歌に乗せて描き出したビデオ「清水ヶ丘にうたう」は、東京支部が総力を挙げて取り組んだ60分の力作である。約3,500本販売。

・百年史委員会

「写真でつづる清陵の百年」は、百周年記念事業の諸記録まで収めて、この4月に上梓されたばかりである。足掛け5年の歳月を要したこの編集には、多くの同窓生から資料の提供を頂き、貴重な写真などを多数収録した、まさに百年にふさわしい記録集である。A4判300頁、4,500円(送料共)。

・名簿編集委員会

10年毎に新しい名簿を発行することになってはいるのだが、今回は丁度百周年記念号ということになり、会員も2万人を越す大人数でもあり、A4判の大型のものとなった。調査段階から中央企画他に委託し、電話・ハガキ等での精査によって判明率は九割を超した。7000部印刷し約6800部販売したが、なぜか代金(5000円)を送ってくれない人がまだ500人ほどおり、委員会では頭を痛めている。

・記念旅行委員会

次頁の「悠久の大地に歌う」にゆずる。

(事務局長 小口祐一)



最先端技術にはロマンがある



理想を追究したツイストノイズカットトランス
ノイズ障害防止の切札で、近未来に先駆けるトランスです

高度情報化社会のアクセシブルな環境＝不要電磁波・ノイズ障害の防止に尽くす

株式
会社

電研精機研究所

代表取締役 矢ヶ崎昭彦 (47回)

本社・工場 / 〒203 東京都東久留米市八幡町1-4-21
TEL: (0424) 73-3745(代) FAX: (0424) 74-0613
大阪営業所 / 〒550 大阪府大阪市西区新町1-7-5 四ツ橋天祥ビル5号館
TEL: (06) 538-1118 FAX: (06) 538-2777

郷里に錦を飾る 浜の湯 ふるさとに集う

取
締
役
山
崎
澤
子
(56回)

取
締
役
社
長
山
崎
壮
一
(51回)

TEL: 〇二六六―五八八〇〇〇(代)

〒三九二 諏訪市湖岸通り三三三〇

政府登録国際観光旅館

浜の湯

各種謝恩パーティなど
ご利用いただけます

ゴルフコンペ

出版記念パーティ

創立記念パーティ

励ます会・壮行会

クラス会・同窓会

全室諏訪湖が眺望できる12階建和風旅館

全室諏訪湖が眺望できる12階建和風旅館

全室諏訪湖が眺望できる12階建和風旅館

全室諏訪湖が眺望できる12階建和風旅館

全室諏訪湖が眺望できる12階建和風旅館

全室諏訪湖が眺望できる12階建和風旅館

全室諏訪湖が眺望できる12階建和風旅館

全室諏訪湖が眺望できる12階建和風旅館

全室諏訪湖が眺望できる12階建和風旅館

全室諏訪湖が眺望できる12階建和風旅館

全室諏訪湖が眺望できる12階建和風旅館

全室諏訪湖が眺望できる12階建和風旅館

全室諏訪湖が眺望できる12階建和風旅館

全室諏訪湖が眺望できる12階建和風旅館

全室諏訪湖が眺望できる12階建和風旅館

全室諏訪湖が眺望できる12階建和風旅館

全室諏訪湖が眺望できる12階建和風旅館

全室諏訪湖が眺望できる12階建和風旅館

全室諏訪湖が眺望できる12階建和風旅館

全室諏訪湖が眺望できる12階建和風旅館

全室諏訪湖が眺望できる12階建和風旅館

全室諏訪湖が眺望できる12階建和風旅館

全室諏訪湖が眺望できる12階建和風旅館

全室諏訪湖が眺望できる12階建和風旅館

全室諏訪湖が眺望できる12階建和風旅館

全室諏訪湖が眺望できる12階建和風旅館

全室諏訪湖が眺望できる12階建和風旅館

悠久の大地に歌う ——記念中国旅行記——

創立百周年記念事業「校歌のルーツを訪ねる中国旅行」の大旅行団が、平成7年5月17日から22日まで、A、B、Cの3コースに分かれ、中国各地を観光しました。また、校歌のルーツ博浪沙、あるいは万里の長城にて校歌の大合唱が行なわれ、国際交流の役割を果たすと共に、同窓の友情を深めながらの楽しく意義深い旅行でした。

旅行団を代表して有賀裕団長(50回)と、諏中時代の卒業生を代表して田中吉泰さん(46回)、若年者兼女性の代表として関由美子さん(93回)に、紀行文を書いていただきました。

団長の大任を果して 深められた心のつながり



有賀 裕 (50回)

ああ博浪の槌とりて……母校第二校歌の冒頭の文言である。この校歌を私は今までの人生で何回歌ったことか。学生時代は何となく歌っていたような思いがあるが、卒業以来数十年経た今歌う校歌は色々の響をもって胸に迫る。

再び青春を、の感傷であり、学生時代の思い出の具現であり、友との結びつきを固める絆であり、吾が過ぎ去りし人生の悲しみ、嬉しさの象徴でもある。色々の響そのものが胸をうつと同時に、人生そのものを吾が胸に包みこんでしまうのである。

こんな気持ちを校歌に対していただきつつ、清陵高校百周年を迎えた。そうだ、校歌に歌われている中国へ記念の旅をしよう。小口先生(47回生)の提案であったが、参会者一同校歌に対する思いが同じであったので、間髪を入れず賛成の言葉が会場を一杯にした。校歌に対する熱き思いが一気にふきだしたようであった。

皆同じ気持ちだ、これなら中国旅行は成功する。絶対うまくいくと確信した。なぜなら参会者が同じ気持ちで直ちに賛成ということは、誰もが校歌に対して熱い思いをもっていただいていたことであり、こんな人が必ず他に沢山いるだろうということは想像に難くなかったからである。直ちに中国博浪の研究がもたれた。

博浪の地は日本人を入れない所で、あえて行けば生きて帰れる保障はないと中国専門家の方から言われた。さっそくJTBを通じて調査をお願いした。結果はそんなに厳しいものではないということであったが、校歌に対する熱き思いは危険と思うことをはね返してしまった。

果して何人中国へ行ってくれるだろうか。最初の予備アンケートでは267名の方が何らかの中国行の意志表示をしてくれた。大変な人数である。この人数なら飛行機をチャーターし、太平洋上で皆で校歌の大合唱ができるだろう。夢は広がるのみであった。

JTBが努力し中国との連絡もとれ、1994年5月5日から9日まで幹事10名により下検分の旅行に出向いた。この一団が帰れなければこの話は終りです、というような言葉が同窓会の役員会で交わされた。

しかし、この下見旅行は全ての面で成功した。特に苦労した点は校歌の碑の建設に関わる費用の交渉であった。初めて行く離れた土地、何もわからない言葉、大変な交渉であった。日は暮れ、外は暗くなってきた。皆の顔に疲労と寂しさが交錯した。ようやく手をうつことができ、宿に帰った。しかし、大丈夫かなという気持はぬぐい去ることはできなかった。本当に来年来た時に碑が建っているだろうか。この気持は皆と一緒に中国の土地に立つまで消えることはなかった。

下見旅行から帰り本格的に中国行の検討がなされた。何回かJTBを通じ中国側と交渉をもった。目的はただ一つ。来年訪中した時に果して校歌の碑が建っているだろうか。桜の木は植わっているのだろうか。この心配に基づいての交渉であった。

いつのことか忘れたが、多分年が明けての頃だと思う。中国から校歌の碑の写真が届いた。想像していたものと違い自

然石そのままの、何かゴツゴツしたものであった。私はきっと手を加えたすっきりしたものだろうと思っていたのだが、感じが違っていた。この写真を見、契約書にサインをして私は安心した。もう5月の出発を待つのみとなった。

出発に備え同窓会館で結団式と説明会の集まりが開かれた。中国のことを少しでも知って行こうということから、小尾郊一先生(31回生)に講師になっていただき、始皇帝のお話を中心に講話をうけた。

この席で私は自ら志願して団長になることを宣言し、参加者の同意を得た。私はこの旅行の大変なことはわかっていた。もし参加者の中で重大なことが起こったらどうしようかと考え、一瞬ためらった。しかし、中国の地で歌う校歌に対する熱き思いを強くしようとする同志の皆さんの心の結集はすべての心配をふきとばしてしまった。よし行こう、よし歌おう、よし楽しい旅行にしよう。私の気は一気にのぼりつめた。

この中国旅行を私達だけの思い出に残すのではなく、一つのドキュメントとして世間にも知ってもらおうという意気込みで、前々からSBCに同行取材をお願いしてきた。そしていつの日かテレビを通じ、私たちの思いを世に知らしめて欲しいと考えた。

SBCは直ちに同意し、前段階の取材に入った。5月8日、出発を間近に控え、SBCのカメラに向かい私の中国旅行への抱負・心構えを語った。この時は張り切っていたので胸一杯の思いを語った。しかし結果としてはこの場面はカットされたようである。SBCとしてはこんなこともあるのか、別の番組で私のこの思いを放映してもらった。

15日の夜、私の家族で壮行会をもってくれた。いよいよ念願の中国旅行である。そぞろな気持ちと同時に心から湧きで

くる熱いほとばしりを感じた。

16日、駅前に三々五々同じ気持ちの方々が集まった。皆の顔は晴々とし、希望に満ちているようであった。駅前よりバスで成田へ向かった。バスの中で私はいみじくも言った。「こんな中国行きはバカな奴のやることだと言う人もいる。私は参加しない人の方がバカに感じるような、バカはバカなりの旅行をしたい」。拍手がおき私は心が安らいだ。皆気持は同じだ、絶対この旅行は成功する、と強く思った。成田のホテルで宿をとった。翌日、成田はサリンの関係で警備が厳しかった。10時のフライトで一路中国へ向かった。快晴で空も私たちの旅行を祝福してくれていた。

北京で市内を見学、天安門広場の大きさに驚き、中国の地での第一歩をゆくりと楽しんだ。この夜長富宮へ泊る。長富宮は万里の長城の長と、山々の富を一緒にした名前のものであった。夜、大きな声で校歌を歌った。念願の中国での第一声であった。

18日北京の軍用飛行場よりチャーター機で鄭州へ向かう。機内で皆で校歌を歌った。出発前に機上で校歌を歌うことを夢見ていたが、今ここにこの夢が叶えられた感じがした。鄭州でバスに乗り、いよいよ博浪へ向かう。去年来た道を行く。懐かしい思いと、沢山の方と一緒に来たために違った場面が生まれるだろうと思う感動が交錯した。博浪では昨年と同じように多くの中国の方々が集まった。

昨年お会いした要人の方と挨拶を交わし、碑の建っている公園に向かった。公園ではすばらしいの一語につける歓迎の意がこめられた碑の除幕式典が開催された。幼い子供達の楽隊の調べ、歓迎の爆竹の響、私達の心はいやが上にも大きな鼓動となり波うった。

中国の共産党の要人の挨拶、私の中国

の方々への御礼と、碑の建立の意義についての挨拶に続き、山崎副団長(51回生)等によるテープカット、最高齢者の藤森久雄さん(39回生)による除幕が行われ、見事に刻まれた校歌の碑が私達の眼前にその姿を現わした。遂に念願の校歌の碑が中国のいわれの地に建立された。

このことは単に中国の地に建てられたというだけでなく、このことにより私達の青春の時からずっと続いてきた校歌に対する想いを高めることになり、私達の母校に対する愛着を深め、さらに私達の母校を中心とした友情の絆を強からしめ、諏訪の地に永い間育った清陵高校の存在を高からしめるのに通じるものがあった。

参加者の胸に同じ思いが同時に去来し、一つの大きなうねりとなって中国のよく晴れた空に向かっての校歌の大合唱となった。肩をくみ皆の顔は笑を含んでいた。そして胸の鼓動が一瞬の冷たい涙の形をもって頬を濡らした。嬉しい。これこそ母校百周年の感動である。中国の方々には私達の行動を不思議な気持ちで見たいようであるが、校歌が終って湧いた大きな拍手は、私達の心を理解してくれたようであった。

この日の夜の夕食会はまさに圧巻で校歌の大合唱に終始した。日本の歌も皆で歌った。

翌日は雨だった。洛陽から少林寺と観光に一日を費し、20日の朝やはりチャーター機で北京に向かった。北京では全部の班が一緒になり夕食をとった。レストランで皆で再び校歌の大合唱となる。そして博浪に参加しなかった班の人達もようやく参加したような、同じ気持ちになったかのように思えた。

5月21日、空は心地よく晴れ渡った。バスを仕立て万里の長城に向かった。相変わらずパトカーの先導でバスは気持ちよく

「時」と「情報」を核に、快適生活を支援する。

EPSON

セイコーエプソン株式会社

〒392 長野県諏訪市大和三丁目3番5号 ☎0266-52-3131(代表)

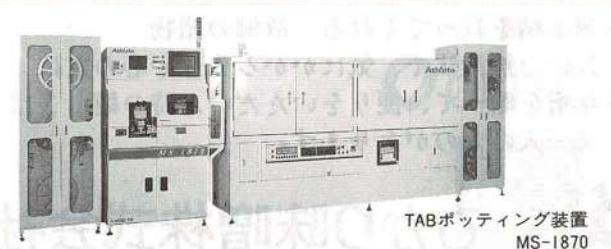
人とともに成長する

HUMAN & ADVANCED

先進のメカトロニクスを追求する

株式会社 ミスズ工業

本社・工場 〒392 長野県諏訪市四賀3090 ☎(0266)52-6611(代)
英輪工場 〒399-46 上伊那郡英輪町中英輪1536 ☎(0265)79-8866(代)



TABボッティング装置 MS-1870

株式会社 ミスズFA

ミスズFA㈱ 〒392 長野県諏訪市四賀2970-1 ☎(0266)53-3369(代)
東京営業所 〒160 新宿区西新宿7-10-12KKDビル ☎(03)5386-8550

PROFILE/創業●1965(昭和40)年4月 資本金●2億円 従業員数●400名 事業内容●時計部品製造、精密金型設計・製作、電子部品製造、FAエンジニアリング
関連会社●ミスズFA株式会社、株式会社東北ミスズ、ミスズトレーディング株式会社、株式会社サンメディカル技術研究所

走った。途中明の十三陵へ寄り中国の偉大な歴史にふれつつ、万里の長城に着く。多くの観光客でごった返していた。

すばらしい景色だ。雄大だ。何ともいえない大きな気持ちになる。ある時は緩くある時は鋭く続く道をのぼる。百三十余人の全員が集合できる場所に着いた。階段状になっており、皆が並んで歌を歌うには最適の場所を中国の方が選んでくれた。空は澄みわたり、延々と続く長城は緑の山々に連なり、まさに悠久の大地そのものである。

三井さん(55回生)の音頭で校歌を歌い始めた。段々と感動が高まることを憶えた。長い長い校歌が終り、人混みの中を歩き始め、カメラのインタビューをうける時、私は自ずと涙がでてたまらなかった。行き交う同窓生から握手を盛んに求められた。皆同じように、すばらしいすばらしいと大声で叫んでいた。

中国の夜の大パーティーが長富宮で開かれた。中国の雑技団の芸を楽しんだ。同じ志で中国に来た情熱あふれる皆さん、私は大きな声でパーティーの成功を

祈り、皆さんに話しかけた。次々と舞台に上り、感動あふれる挨拶をした。校歌も歌った。いつまでもパーティーは続き、皆の心はいつまでも燃え続けた。ありがとう、ありがとう。こんなすばらしい旅をありがとう。計画してからどうなるか心配の連続であったが、今夜このパーティーに臨み、人生においてこんなにすばらしい夜はないことを実感した。手と手を握り、肩と肩をくみ合い、悠久の大地・中国で何度となく歌った校歌。私達の青春はもどった。私達の心のつながりは深まった。これから生きていく人生の大きな励みも生まれた。中国校歌のルーツを訪ねての旅は大成功のうちに終了した。いつこんな時が再びくるだろうか。また5年たったら博浪へ来よう、帰りの飛行機の中で誰からともなく語られた。清陵万歳！ 日本万歳！

お互いに長く生きて、共に語り合おうではありませんか。多くの人から御礼の手紙をいただいた。

終りに参加された方々、副団長、班長の皆様に感謝申し上げ筆をおきます。

校歌の音頭とりを辞して



田中吉泰(46回)

諏訪清陵高校同窓会が、創立百周年記念事業の最大イベントとして、第二校歌「ああ博浪の槌とりて」のルーツ——中国大陸の博浪沙を訪れ、その地と万里の長城で校歌を歌おうという、ロマン溢れる企画が発表された時には「我が意を得たり」とばかり、欣喜雀躍した。

私が諏訪清陵高校の前身諏訪中へ入学したのは、昭和15年。そこで初めて接し

たのが第一校歌の「東に高き」と第二校歌の「ああ博浪の槌とりて」だった。第二校歌は難解で意味もわからずに歌ったのが、正直のところだが、蛮声を張り上げながらいたく感動した。校歌にすっかり魅せられた私は、時間さえあれば、校歌を口ずさんでいた。歌謡曲や民謡はもちろん、唱歌でさえ、なかなか覚えられなくて、悩まされた私だが、校歌だけは

不思議と脳ずいに染み込んでくれた。

習うより慣れろと昔からいう。歌っているうちに、あれほど難解だった校歌が、おぼろげながら解ってきた。そうになると益々、校歌に、のめり込んでしまった。中学三年生の時だったと記憶する。談話部長から談話会へ出ないかと誘いがかかった。私は生来、上がり性で、人前に出ただけで真っ赤になり、しゃべることもおぼつかない小心者だった。それが論旨を組み立て、公表するなんてできるはずがない。断わり続けたが、同期生たちの執ような口説きに負けて、談話会へ出ることを決心させられた。

演題は「校歌に生きよ」だった。何をしゃべったか覚えてもいない。だが反響は上々だった。にもかかわらず、小心者の性癖は少しも改善されなかった。私は今でもそれを悔やんでいる。

同窓会へ出るようになって、すぐ会報委員に捉まった。副委員長を経て委員長になったころから、校歌の音頭とりは君だと暗黙のうちに決められていた。会報委員長を辞めてからも、総会や役員会の後、校歌を歌う時にはよく、音頭とりの指名を受けた。校歌に魅力を感じ、愛しているから、抵抗もせずに応じてきたが、そろそろ潮時である。

中国旅行の企画に便乗して、校歌の音頭とりから下りられる。この機会を逃したら、自分自身を納得させる機会は巡ってこない。よしやるぞと決心した時、有賀旅行団長、山崎副団長から中国旅行参加の勧誘があった。嬉しかった。ただ心配なのは中国旅行に身体が堪えられるかだった。18年前、脳血栓で倒れ、半身不随になった経験を持つからである。そう言えば、あの時も後輩の田中クリニックの田中院長(52回生)のお世話になって、命拾いしたっけ。

有賀団長、山崎副団長も一応後輩であ

る。先輩らしいことは何もしてないが、ありがたいことに旅行中ずっと面倒を見て下さった。私が中国旅行で一番強く感じたことは、同窓生の連帯意識のすばらしさだった。年齢、性別に関係なく、教育環境がこんな人間関係をつくれるんだなど感心させられた。あるいは、広大な中国大陸の自然が、それに一役かっていたのかもしれない。

中国大陸と言え、私は生誕時から深いかわりを持っている。まず、私の名前がそうである。私が生まれる直前、故人となった祖父の生れ変わりとして、吉太郎の吉の字を貰い、中国の名山泰山のよ

うな存在になれかしと泰の字をつけたのが由来と聞いている。祖父は、製糸家で山下組の本店支店長を長く勤めたが、群馬、埼玉、茨城あたりのマユだけでは足りなくて、中国へ渡航、大陸の各地から集荷されたマユの買い付けをした中国貿易の先駆者だった。

生誕時から中国に因縁を持たされた私が、その地で校歌の音頭とりのバトンタッチをするというのは、宿命だったのかもしれない。中国博浪沙に諏訪清陵高校ゆかりの公園ができ、その歌碑の前で、校歌が歌われるのが、永久に続けと祈るや切である。

校歌と清陵再認識の旅

関由美子(93回)

あれはいつ頃のことであったか。もう3、4年程前のことになるが、その頃まだ大学生だった私に突然母が「平成7年に中国へ行こう。」この提案が、母と私が中国旅行へ参加するきっかけとなった。母はその旅行が、清陵百周年記念のために企画された中国旅行であることを話してくれた。ところが私は、月から見える唯一の人工建造物と言われる「万里の長城」をこの目で一目見たいという一心の、気軽な気持ちで、旅行への参加を決めたのだった。

同年代の参加者はなく、知り合いのほとんどいない中、私の旅は始まった。名古屋空港へ向かうバスの中で初めて、この旅には第二校歌のルーツを訪ねるという意味が込められていることを知った。そして博浪沙は、中国の僻地にあり、許可がなければ簡単に行くことなどできな

い所ようだ。そこへ今回、清陵百周年の記念碑を建て、それだけではなく、万里の長城で、皆で校歌を歌うのだという。私達Bコースが、博浪沙へは行かれぬことを少し残念に思いながらも、今回の旅行にこのような大イベントが加えられていることを知り、新たな期待に胸を膨らませていた。しかしその反面、万里の長城で歌う、ということがそんなに容易にできることであるとは思えず、本当に実現できるのかと半信半疑でもあった。

中国4000年の歴史、と言われるが、その時間と空間のスケールはまさに驚異的である。西安で見た等身大程の兵馬俑の列。2000年という気が遠くなる程の長い年月、秦の始皇帝陵を取り巻き地中に埋められていたのだ。そしてまた、山々の尾根に沿って延々と続く万里の長城。どれ程の年月と労力を費やして造り上げた



のであろうか、想像さえできない程だ。一步一步踏みしめながら登り、眺めたあの長城からの光景は、一生忘れられないであろう。

こうして遺跡を巡り旅が進む中、何度となく校歌は歌われた。そしてその都度、皆の気持ちが高まっていくようであり、学生時代の顔に戻っているように見えた。そして5月21日、無事目的を果たしたのである。

体制の違う国へ行き、同窓会が万里の長城で校歌を歌うということを実現したのだ。これ以上の記念旅行はないという気持ちで、皆満足できたのではないだろうか。私はいつも、口先だけでなんとか歌っていたのだが、先輩方の力強い歌声を聞き、この校歌はこうに歌うものなのだと万里の長城で実感した。あれ程の人数が、この校歌のもと一つに団結したのであるから、本当に素晴らしいことだ。そしてまた、驚くことに、この校歌は、大先輩である中島喜久平さんが、一高に入学してわずか高校生の時に書き残したものだという。その若さと、中国の歴史や漢文をどれ程熱心に勉強されたことであろうかと、先輩の偉大さを改めて感じた。

今回の旅行に、単なる観光気分で参加した私であったが、清陵の校風と校歌を見つめ直す本当に良い機会となった。そして、世代の違う方々からいろいろな楽しいお話を聞かせていただき、私の知らない清陵の一面を垣間見ることができたように思う。また、先輩方々の学生時代の友情が、年を重ねるごとにさらに深まっているように見え、とても羨しく思えた。

今回、父は参加できなかったが、5年後に同級生の方々と、博浪に植えて来た桜の成長を見に行くのだと、話がもち上がっているようだ。

筆不精を救ってくれる 故郷の贈物

長いご無沙汰で、気にかかる先生や心の友に味噌を贈って、便りをいただいた時の嬉しさは又一人のものがあります。



ひかり味噌株式会社

長野県諏訪郡下諏訪町4848-1

林 善八郎(58回) 林 博優(64回) 林 善博(81回)

商品名
産直の大寒仕込み

みやび
雅

(お届け価格)
3,000円



500g(cup 詰)×6
Tel 0266-27-8848
Fax 0266-27-7791
振替口座 長野 5-25932

技術・夢・《三協精機》

世界第一のオルゴールメーカー《三協精機》。
その最先端技術が、夢を形にした。

時代を越えて甦る“人間の音”が
技術の粋による“心の音”が
感動と安らぎの世界へ誘います。

ファインメカニズム & インテリジェンス
三協精機
Sankyo 株式会社三協精機製作所

本社下諏訪工場 〒393 長野県諏訪郡下諏訪町5329
TEL: 0266-27-3111代/FAX: 0266-28-5833
東京本社 〒105 東京都港区新橋1-17-2
TEL: 03-3502-3711代/FAX: 03-3502-6228

Sankyo
あり高い音の名品——オルフェウス
ORPHEUS

オルフェウス
80弁ディスクオルゴール——ORPHEUS——
Traditional Style 801[トラディショナル・タイプ]
Modern Style[モダン・タイプ]





創立百周年 記念事業を終えて

同窓会長 小 菅 重 男

平成 4 年以来進められてきた、母校創立満百周年を祝う同窓会主催の記念事業も、この 4 月の『写真でつづる清陵の百年』の刊行をもって、ここに完結することになりました。

足掛け 5 年、この間、事業の推進にあたられた実行委員会の各部会・各委員会の部会長・委員長をはじめ、担当学年および各委員の皆様の並々なぬご尽力と、各委員会の活動について温かいご支援・御協力を賜りました各支部に対しまして、心から厚く御礼申し上げます。

また、今回の記念事業の目玉ともいうべき文化事業（シャガール展・講演会・バンベルク交響楽団演奏会）につきましては、同窓有識者の皆様のお力添えと、地域各界の皆様の多大のご協賛を得て、成功裡に終了することが出来ました。ここに深く感謝申し上げます。

3 月 2 日の常任幹事・幹事会で、記念事業特別会計決算の中間報告が行われました。事業内容によって予算の執行に若干の増減はありますが、総枠において予算の範囲内に納めることが出来ました。厳しい予算のなかで、各委員会とも本当に御苦労様でした。

当日の幹事会における主たる協議事項は、今後の同窓会運営の財政的基盤の問題でありました。

御案内のとおり、同窓会は、会員相互の親睦を図り、母校の発展に寄与することを目的として、年 1 回の総会を開催するとともに会報を発行し、財団法人諏訪清陵会を通じて、母校の教育振興のための助成を行っています。

同窓会運営の財源は、新入生の入会金と終身会費ならびに同窓会基金の果実であります。財団のそれは、財団基金の果実と同窓会一般会計からの繰出し金（寄付金）であります。

同窓会ならびに財団には現在、それぞれ約 5000 万円の基金がありますが、今日の超低金利のもとでは、基金の果実に期待することは出来ません。大幅な財源不足が見こまれます。これからの検討課題であります。

百周年記念事業の成功を会員の皆様とともに喜び、今後の課題の一端にも触れ、同窓会の一層の発展を祈念してご挨拶とします。



時には少し 肩の力を抜いて

学校長 松 下 勲

同窓会員の皆様方には、その後、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。昨年度は、創立百周年を記念して様々な行事や事業が行われましたが、物心両面にわたる温かなご支援と、ご関係各位の格別のお力添えによりまして、お蔭様で盛會裏に終了することができました。また、各支部の総会にもお招き頂き、会員の皆様方との親交を一層深めることができました。ここに衷心より厚く御礼申し上げます。

平成 8 年度、282 名の新入生を迎え、新たな歴史の 2 ページ目を、引き続き母校の発展を目指して微力を捧げて参りたいと存じます。

さて、今、若者たちは、不透明で流動的、益々混迷の度合いを増していく様にも思える予測し難い未来社会を見据えながら、一方では、薬害エイズに^{まっ}纏わる経緯や住専問題の顛末等、カネとモノに偏りすぎた価値観の蔓延と尽きることなく繰り返される大人たちの荒唐無稽とも思える言行によって、心は少なからず揺れ動いている様に思えます。

構造的・複合的な要因もあってか、指導的立場にあると言われている人々の理に叶わぬ言行が、多感な若者たちの心に重く陰を落とし、シラケと人間不信を増幅させ、やがてそれが莫大なツケとなって、我が国の将来に禍根を残すことになりはしないかと強く懸念されることがあります。

教育問題は、結果が出るまでには長い歳月がかかり、また、改革には国民全体の意識変革と膨大なエネルギーを要します。高等学校におきまして、これまでの教育を省み偏差値偏重からの脱皮や、人間の在り方・生き方教育の重視など、改善を進めている折、身近で感化させやすい教育者でもある大人たちの後ろ姿が、子供たちの生き方や人生観にも深く係わってきていることは否めません。

急速な社会の変化に対応していくことさえも儘ならぬ昨今ですが、目先のことに右顧左眄するだけではなく、時には肩の力を抜いて心を安め、少し長いスパンで若者たちの未来のことも考えてみたいものです。

会員の皆様方には、引き続きお力添え賜りますよう宜しくお願い申し上げますと共に、益々のご健勝とご発展を心より祈念申し上げます。

平成 7 年度 会務報告

平成 7 年

4. 5 平成 7 年度諏訪清陵高校入学式
入学生 320 名(男子 177 名、女子 143 名)(101 回生)小菅同窓会長
祝辞<松下勲第 25 代校長(59 回生)着任>
- 4.15 岡谷支部総会 午後 6 時 於岡谷ホテル
5. 6 原支部総会 午後 3 時 於原中央公民館
- 5.12 会計監査 午後 4 時 於清陵会館
- 5.13 百年史委員会(第 20 回)午前 11 時 於清陵会館
- 5.17~24 百周年記念旅行「中国の旅」実施
6. 3 財団諏訪清陵会理事会(平成 6 年度事業・決算承認ほか)午前 11 時 於清陵高校
常任幹事会(幹事会提出議案策定・審議ほか)午後 1 時 30 分 於清陵会館
幹事会(平成 6 年度事業・決算承認ほか)午後 3 時 30 分 於清陵会館
- 6.13 会報 21 号完成、発送(15,000 部)(会報編集担当 中村委員長ほか 62 回生)
- 6.20 諏訪清陵高校創立百周年記念式典実行委員会(学校)午後 4 時 於清陵高校 小菅式典実行委員長(同窓会長)ほか出席
7. 1 百年史委員会(第 21 回)午後 1 時 清陵会館

7. 5 トレーニングルーム完成テープカット 午前 11 時 於清陵高校
- 7.10 諏訪清陵高校同窓会「会員名簿」完成、発送開始
- 7.12 会報委員会反省会 午後 6 時 於おび川
- 7.20~8.27 記念美術展「マルク・シャガール展」開催 於諏訪北沢美術館、諏訪信用金庫本店ギャラリー
- 8.10 百年史委員会(第 22 回)午前 11 時 於清陵会館
- 8.29 名簿委員会反省会 午後 5 時 於清陵会館ほか
9. 5 記念事業文化部会 午後 6 時 30 分 於あるが
- 9.13 東京支部「東京清陵会」総会 午後 6 時 於虎ノ門パストラル
- 9.16 百年史委員会(第 23 回)午後 1 時 於清陵会館
- 9.20 記念事業実行委員会・支部長合同会議 午後 5 時 30 分 於あるが
10. 4 記念事業記念総会運営部会 午後 5 時 30 分 於清陵会館
10. 7 記念事業特別講演会 午後 2 時 於諏訪市駅前市民会館 講師 NHK 解説主幹 小林和男氏
諏訪支部総会 午後 4 時 於諏訪シティホテル成田屋
10. 8 諏訪清陵高等学校創立百周年記念式典並びに祝賀会 午前 10 時 30 分 於清陵高校 小菅会長(式典実行委員長)、同窓会役員出席
- 10.26 百周年記念事業実行委員会 午後 6 時 於清陵会館
- 10.28 百年史委員会(24 回)午後 1 時 於清陵会館
11. 4 記念文化講演会 午後 2 時 於諏訪文化センター 講師 文芸評論家 江藤淳先生

11. 5 諏訪清陵高校(旧制諏訪中学)創立百周年記念同窓会総会 午前 11 時 於諏訪清陵高校小体育館
同祝賀会 午後 1 時 30 分 於諏訪清陵高校大体育館
- 11.10 記念音楽会「バンベルク交響楽団演奏会」 午後 6 時 30 分 於カノラホール
- 11.11 松本支部総会 午後 4 時 30 分 於信州会館
- 11.30 平成 8 年度定期総会打合せ会 午後 6 時 30 分 於秋月(当番幹事 63 回生)
12. 2 百年史委員会(24 回)午後 1 時 於清陵会館
12. 6 記念事業部会合同反省会 午後 6 時 於浜の湯
- 平成 8 年
- 1.13 百年史委員会(25 回)午後 1 時 於清陵会館
2. 3 東海支部総会 午後 4 時 於名古屋千種会館
2. 4 百年史委員会(26 回)午前 11 時 於清陵会館
- 2.16 長野支部総会 午後 6 時 於山王共済会館
3. 2 常任幹事・幹事合同会議 午後 3 時 於清陵会館
3. 3 百年史委員会(27 回)午前 10 時 於清陵会館
3. 8 平成 7 年度(第 48 回)卒業式 卒業生 352 名(男子 210 名、女子 142 名)(99 回生)小平副会長祝辞
富士見支部総会 午後 6 時 30 分 於富士見油屋
3. 9 原支部総会 午後 4 時 於原中央公民館
- 3.16 下諏訪支部総会 午後 6 時 30 分 於ぎん月
(事務局 木下 芳英)

いつも新しい時代の光でありたい



日東光学株式会社

長野県諏訪市湖南4529 ☎0266-52-1610代

本社・工場／上諏訪工場／東京営業所(日東光学グループ)㈱日東光学松川工場、㈱日東光学正和工場

地域づくりのパートナー

諏訪信用金庫

会長 理事 山 岡 利 平 (28回)
理 事 長 宮 坂 久 臣 (49回)

本店 長野県岡谷市郷田 2 丁目 1 番 8 号

平成 7 年度諏訪清陵高校同窓会決算書
平成 8 年度諏訪清陵高校同窓会予算書

収入の部 (単位：円)

科 目	平成 7 年度決算額	平成 8 年度予算額
前年度繰越金	5,809,260	9,682,534
入 会 金	1,610,000	1,410,000 ¹⁾
会 費	9,770,000	4,320,000 ²⁾
基本財産収入	735,617	200,000
繰 入 金	47,001,984	0 ³⁾
雑 収 入	6,871,410	2,000,000
合 計	71,798,271	17,612,534

支出の部

科 目	平成 7 年度決算額	平成 8 年度予算額
会 議 費	230,165	300,000
定 期 総 会 費	50,000	400,000
旅 費	386,250	470,000
人 件 費	1,080,000	720,000
需 要 費	244,189	220,000
役 務 費	638,373	620,000
慶 弔 費	708,260	730,000
記 念 品 費	248,500	250,000
繰 出 金	55,530,000	4,250,000 ⁴⁾
基 金 繰 入 金	3,000,000	9,600,000
雑 費	0	20,000
予 備 費	0	32,534
合 計	62,115,737	17,612,534

備考：1) 新入生より 1 人 5,000 円
2) 終身会費 (昭和 62 年度新入生より、1 人 10,000 円)
3) 基本財産積立金より
4) 会報特別会計 (170)、清陵会館維持費特別会計 (5)、
(財)諏訪清陵会 (250) へ (単位：万円)

平成 7 年度	同窓会報特別会計決算報告 (平成 7 年 4 月 1 日～8 年 3 月 31 日)
収 入 額	2,642,384 円 〈一般会計よりの繰入金、広告収入等〉
支 出 額	2,532,483 円 〈会報 21 号 16,600 部印刷費、郵送料等〉
収 支 残 額	109,901 円〈次年度へ繰り越し〉

平成 7 年度	清陵会館維持会計決算報告 (平成 7 年 4 月 1 日～8 年 3 月 31 日)
収 入 額	384,591 円 〈一般会計よりの繰入金等〉
支 出 額	0 円
収 支 残 額	384,591 円〈次年度へ繰り越し〉

百周年記念事業特別会計決算報告 (平成 4 年 4 月 1 日～8 年 3 月 31 日)
収 入 額 72,578,989 円 〈一般会計よりの繰入金、会費、余剰金戻入等〉
支 出 額 72,578,989 円 〈下記参照〉
収 支 残 額 0 円
総 務 費 5,178,191 円 〈諸会議費、SBC ビデオスポンサー料、一般会計 への戻入金等〉
総会祝賀会費 9,546,331 円 〈パーティー費、記念品費、総会案内送料、資 料・パンフ印刷費等〉
環境整備費 37,719,861 円 〈トレーニングルーム建設費、博浪公園歌碑植 樹費、パソコン一式代等〉
文化活動費 19,154,072 円 〈講演会・美術展・音楽会費への繰り出し金等 (各活動費は下記参照)〉
記念旅行費 980,534 円 〈下見費用、SBC ビデオ費用等〉 [講演会費用一約 228 万円 美術展費用一約 2,540 万円 音楽会費用一約 1,833 万円]

ビデオ制作特別会計決算報告 (平成 4 年 4 月 1 日～8 年 3 月 31 日)
収 入 額 20,707,815 円 〈一般会計よりの繰入金、販売代金等〉
支 出 額 20,707,815 円 〈製作費、プリント・パッケージ代、発送費、販 売費等〉
収 支 残 額 0 円

名簿特別会計決算報告 (平成 4 年 4 月 1 日～8 年 3 月 31 日)
収 入 額 36,970,454 円 〈一般会計よりの繰入金、売上金、広告代金等〉
支 出 額 36,970,454 円 〈調査費、製作費、送料、会議費、督促費用等〉
収 支 残 額 0 円

平成 7 年度	百年史特別会計中間報告 (平成 4 年 4 月 1 日～8 年 3 月 31 日)
収 入 額	5,032,377 円 〈一般会計よりの繰入金、預金利子等〉
支 出 額	3,357,847 円 〈会議費、旅費、調査取材費、写真代等〉
収 支 残 額	1,674,530 円〈次年度に繰り越し〉

学 校 便 り

同窓生の皆様、今日は。お久しぶりです。
昨年は何と言いましても創立百周年記念行事が最大の催し物でした。その節は役員の方々をはじめ皆々様にご大変お世話になりました。また、沢山の記念品を贈呈いただきましてありがとうございました。皆様の意気のこもった記念品が学校のあちこちで「俺たちの魂を受け継いで欲しい」と後輩たちに語りかけ、激励しております。
百周年が歴史的に恵まれておりまして、記念行事を終えた今、2000 年を目処に変わろうとしている世の中の動きに乗って、清陵も 2000 年に向け教育課程はもちろん新しい学校の姿を求めて行かねばならぬ所に来ていると思います。職員一同、受け継ぐべき伝統は受け継ぎ、改革する所は改革し、皆様の母校が誇れる学校であるよう頑張りたいと思っております。
さて、学校では 3 月に 352 名の卒業生を送り出し、4 月 6 日の入学式では、小菅会長、宮坂副会長、山崎理科教育振興会理事長ほか役員の方々をお迎えして、282 名の新入生を受け入れ 1 年 7 学級、2 年 8 学級、3 年 8 学級の計 23 学級 (生徒数 930 名) でどの学年も順調にすべりだしました。特に一年生にはニュージーランドからの留学生 (一年間ですが)、未熟児網膜症で目が不自由な生徒、健康を害していて教室の移動も容易でない生徒が入学しており、いろいろな生徒がいろいろに頑張れるよう学校の対応が求められている時代で、このことが清陵生にとって教科の勉強ばかりでなく、豊かな人間性を育むうえで素晴らしい環境にあるのではないかと信じて

〔平成 8 年度入試結果〕						
卒業年月	進 学			就 職		合計
	希望者	進学者	%	希望者	就職者	
平成 8 年 3 月	350	227	64.9	2	2	352
平成 7 年 3 月	357	195	54.6	0	0	357

私 立 大	合格者数	7 年度同	私 立 大	合格者数	7 年度同
文 教 大	8 (6)	4 (1)	日 本 女 大	4 ()	1 ()
青 学 大	13 (7)	5 (5)	法 政 大	17 (6)	17 (13)
学 習 院 大	5 (2)	2 ()	明 治 大	24 (10)	18 (11)
国際基督教大	1 ()	()	立 教 大	6 (1)	5 (2)
慶 應 大	16 (8)	10 (5)	早 稲 田 大	27 (18)	18 (12)
国 学 院 大	5 (4)	1 ()	同 志 社 大	8 (6)	7 (6)
上 智 大	8 (4)	2 (2)	立 命 館 大	18 (13)	9 ()
中 央 大	18 (12)	14 (7)	その他の私立大	321 (176)	245 (155)
専 修 大	8 (6)	16 (11)	私 立 大 計	586 (322)	434 (269)
東京電機大	4 (1)	7 (6)	短 大 計	18 (2)	24 (6)
東京理大	34 (15)	18 (9)	各 種 専 門 学 校	8 ()	15 (1)
日 本 大	41 (27)	35 (24)	文 部 省 所 管 外 大	4 (3)	0 (0)

4/17 現在 * 表中 () は過年度生の内数

止まないのです。
学校の授業については、皆さんも既にご存じのように平成 7 年度から 2 年生で大きく文系、理系に類系別され、8 年度 3 年生ではさらに進路希望に合わせて 4 コースに別れ、また国語と英語では習熟度別講座編成の授業を展開しながら、専ら進学校として態勢を整え邁進しております。「希望する大学」に「現役で合格」は生徒、保護者、教師の共通した願いであり、これに応えることが清陵高校の大きな責務の一つと考えております。
この春の卒業生の進路状況は、公立大合格 106 名、私立 4 大合格は延べ 264 名、短大 10 名、現役進学率 65% と、近年にない良い結果を収めることができました。詳しくは下の表をご覧ください。どこが好成績に繋がったのかということが大切なのですが、進路係からのはっきりした分析は今のところ (4 月 16 日現在) 出ていません。ちまたでは「今年の生徒はおとなしく素直だった、最後まで大変ねばり強かった、質問によく来た、校友会の活動も大変うまく行った」等口々に言われております。この成果が単年度で終わることなく安定した結果が得られるよう分析研究し、進路指導体制として確立して行くことが当面の課題であるように思います。が、とは言ってもどんな進学校も年によって波があることも確かです。またこの春の進路状況が例年になく良かったのは、清陵高校ばかりでなく他の進学校でも良かったようで、県の学力向上事業の成果がようやく現れて来たとも考えられ、学力の低迷が云々されている本県としましては喜ばしいことですが、進学校が地元の期待にどれだけ応え得るか問われていることにも

国 公 立 大	合格者数	7 年度同	国 公 立 大	合格者数	7 年度同
北 海 道 大	2 ()	1 ()	山 梨 大	6 (1)	5 (1)
弘 前 大	4 (2)	()	山 梨 医 科 大	0 ()	()
東 北 大	7 (1)	6 (2)	信 州 大	18 (5)	15 (9)
茨 城 大	7 (3)	3 ()	静 岡 大	6 ()	4 (2)
筑 波 大	8 (1)	4 (2)	名 大	2 (1)	4 (3)
群 馬 大	1 (1)	()	三 重 大	2 (1)	1 ()
埼 玉 大	5 (2)	4 ()	京 都 大	3 (2)	()
千 葉 大	14 (5)	9 (4)	大 阪 大	2 ()	()
東 京 大	1 ()	1 ()	奈 良 女 大	0 ()	()
東京学芸大	5 (1)	1 ()	広 島 大	0 ()	()
東京農工大	1 ()	3 (1)	その他の国立大	25 (13)	17 (7)
東京工大	1 (1)	1 (1)	国 立 大 計	143 (49)	97 (39)
東京芸大	0 ()	3 (3)	高 崎 経 大	3 (3)	()
お茶の水女大	1 (1)	1 (1)	東 京 都 立 大	3 (1)	()
一 橋 大	1 ()	1 ()	横 浜 市 大	1 (1)	()
東京外国語大	1 ()	2 ()	都 留 文 大	1 (1)	2 (1)
横 国 大	5 (1)	4 (1)	他 の 公 立 大	12 (2)	9 (4)
新 潟 大	8 (5)	3 (1)	公 立 大 計	20 (8)	11 (5)
上 越 大	0 ()	()			
金 沢 大	7 (2)	4 (1)	国 公 立 大 計	163 (57)	108 (44)



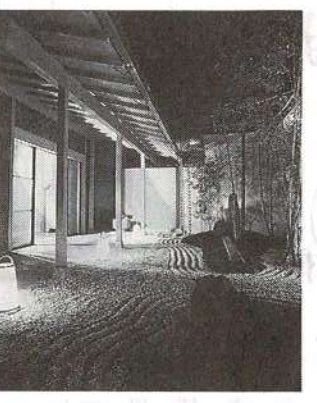
昭和シェル石油特約店

株式会社 細川商店

諏訪市諏訪二丁目10番4号 ☎ 本店 (0266) 52-3737 (代)

代表取締役	細川 昭 八 (51回)
専務取締役	細川 洋 一 (84回)
常務取締役	細川 浩 二 (86回)
取 締 役	宮 坂 友比古 (67回)
相 談 役	矢 島 千 晴 (41回)

「和のおもてなし」をモットーに
お料理の味付の良さと
小ちんまりとした落ち着いた宿として好評です。



諏訪に生きる
伝統と真心の宿

創業七十年

波の湯

〒三九二
長野県諏訪市湖畔通り三―三―二四
TEL (0266) 52-2655 (代)

なり、清陵としましてこの問題には前述のとおり真剣に対処するつもりであります。

部活動に話を移しましょう。何と言いましても天野先生の率いる端艇部が突出しています。8 月の全国総体（鳥取）で男子ダブルスカル 2 位、女子舵手付フォア 5 位、また 3 月の全国高校選抜大会（静岡）では女子ダブルスカル 3 位という成績でした。次に新井先生顧問の硬式テニスですが 10 月新人戦県大会で個人では花岡武君が優勝、団体戦で今井・花岡組が優勝で 11 月の北信越大会（新潟）に出場しました。その他、野球部は春の南信では優勝しながら、夏の県大会では実力が発揮できず、甲子園の夢が阻まれました。全般に運動部の部活は昨年と同様、一定のレベルにはありながら、それ以上の成績が出ないというところが多いと思いますが、進路保証の面から考えますと、あまり無理は言えないのが現状です。

文科系の部活は運動系に比べると地味ではありますが、健全に活動を続け高文連の大会や、清陵祭にすばらしい成果を残しています。また部活ではありませんが、英語のディベート大会に一年生のグループが県で優勝しました。これは英語ができるばかりではなく、理論的にもしっかりしていて咄嗟の判断と機転が利くことが要求されますから、さすが清陵生ならではのことと言っても良いでしょう。指導は高沼先生と AET のスージーさんでした。

一度、学校においていただいて今の清陵の姿を見ていただくのが一番かと思いますので、時間が取れましたらお出掛けください。お待ちしております。

◇今年の主な学校行事

清陵祭 7/19～21 端艇大会 9/17 湖周マラソン 10/25 2 年生研修旅行 11/5～8 センター試験 1/18～19 卒業式 3/7

◇年度末人事異動

〈ご転出〉

小林伸子先生（諏訪実業高校） 中村達雄先生（阿南高校） 伝田誠事務長（県農政部農政課係長兼課長補佐）

〈ご退職〉

竹村一司先生、武居浩明先生

〈ご転入〉

駒井千枝子先生（松本盲学校） 岩崎靖先生（阿南高校） 加藤尚也先生（諏訪実業高校） 中込一雄事務長（県保健予防課結核係長） 木下芳英先生（元清陵高校職員）

（教頭 中沢延子記）

- ・同窓会会員名簿 ￥5,000 円（送料とも）
 - ・写真でつづる清陵の百年 ￥4,500 円（送料とも）
 - ・校歌等 CD ￥1,000 円（送料 300 円）
 - ・ビデオ「清水ヶ丘にうたう」 ￥4,000 円（送料 800 円）
- いずれも残りが少なくなっています。

（文鎮は売り切れました）

お申込は事務局へ

代金は品物に同封の郵便振替で

東京清陵会だより

母校創立百周年を機に東京清陵会の活動も大変活発だった。

一つは記念ビデオ“清水ヶ丘にうたう”の制作で、3 年の歳月をかけ、一流スタッフを動員して 64 分の大作が完成した。販売業務も東京清陵会が担当し、合計 3361 本を購入頂いて、2 月末総ての業務を終了した。これに要した総費用 2070 万円は、同窓会本部の補助金 800 万円と合わせて、全額回収できた。片野満監督（56 回）をはじめ、ビデオ制作委員会、同窓会本部、ビデオ購入の同窓生の皆さんに心から御礼申し上げます。なお、東京清陵会でのビデオ業務は終了したので、今後の購入希望者は岩波映像販売または同窓会本部までご連絡願いたい。

東京清陵会だより第 6 号が創立百周年記念号として 8 月 1 日に発行された。A 4 判 16 頁、特集“母校諏中・清陵に想う”、女性会員 60 名の会合特集“第一回女性の集い・母校への絆深めて”をはじめ、“母校創立百周年記念訪中記”、“三行短信”などが紙面を賑わした。

この二十年余東京支部総会は日本青年館・東洋軒で行われてきたが、参加者の増加等により第 29 回総会は虎ノ門パストラルで行われ、例年より 60 名も多い 317 名が参集頂いた。岩崎信子さん（62 回・SBC アナウンサー）の司会で、小平祐会長の挨拶、小菅重男同窓会長並びに松下勲学校長の祝辞、林尚孝事務局長の会務報告があり、山田六一・小口楨三・増澤譲太郎・小松誠・洲上良子の 5 氏による鏡割が拍手の裡に行われた。懇親会が始まって、前田由美子（62 回）さんら 4 名による琴の演奏が披露され、賑やかな集いとなった。また、参加者には早川次彦氏（61 回）のデザインによる百周年記念のテレホンカードが配られた。素晴らしい総会を演出して下さった当番学年の 62 回生及びサブ学年の 63 回生ほか関係の皆さんのご尽力に感謝申し上げます。

支部活動報告

支 部 名 (会員数)	支部役員名・連絡先	平成 7 年度支部総会 日時・場所・参加者・内容	平成 7 年度活動内容	平成 8 年度活動内容
富士見 (200 名)	支部長/細川 昭(46 回) 副支部長/五味昭二(46 回) 小林 互(50 回) 事務局/古屋真一(77 回) ☎ 399-02 富士見町富士見 8270 ☎ 0266-62-6394 (細川 昭)	平成 8 年 3 月 8 日 油屋旅館(富士見町) 22 名 (本部より小菅会長・松下学校長参加) ◇事業・会計報告	◇清陵富士見会(東京)との交流 ◇逝去会員弔問(2 名)	◇支部名簿作成と発行 ◇清陵富士見会と交流 ◇視察研修 ◇定期総会(平成 9 年 3 月初旬 油屋)
原 (90 名 村外在住者の特別会員 150 名)	支部長/小林貢三郎(52 回) 副支部長/中村正英(59 回) ☎ 391-01 原村 7977 番地 ☎ 0266-79-2717 (中村正英)	平成 7 年 5 月 6 日 原村中央公民館 20 名 ◇平成 6 年度事業・決算承認 ◇平成 7 年度事業計画・予算承認 ◇講演会「酒にまつわる話」松澤宏昭(57 回)	◇広報「はら」発行等	◇定期総会(平成 8 年 3 月 9 日)終了講演会「ハーブ(薬草)のひらく可能性」細川幸二(51 回) ◇会員名簿作成 ◇特別会員に広報「はら」等情報提供
茅 野	支部長/丸茂恵司(50 回) 副支部長/矢崎斎男(51 回) 事務局長/永沢俊是(52 回) ☎ 391 茅野市塚原 1-3-20 茅野商工会議所内 ☎ 0266-72-6181 (永沢俊是)	平成 8 年 2 月 25 日 サンパレス茅野 ◇事業報告等 ◇組織強化について ◇支部活動計画について		◇定期総会(平成 9 年 2 月 岡島ローヤル会館)
諏 訪	支部長/河西保美(57 回) 副支部長/西川愛子(64 回) 会計/牛山 孝(59 回) 事務局/茅野嘉利(57 回) ☎ 392 諏訪市諏訪 2-15-3 ☎ 0266-52-0744 (河西保美)	平成 7 年 10 月 7 日 諏訪シティホテル成田屋 170 名 ◇事業・会計報告 ◇小林和男(62 回)講演会	◇ジャガール版画展	◇定期総会(平成 8 年 11 月初旬 諏訪シティホテル成田屋) ◇講演会
下諏訪	支部長/三井章義(51 回) 副支部長/有賀公雄(47 回) 酒井敏夫(56 回) 小口剛(59 回) 会計/小口章夫(57 回) ☎ 393 下諏訪町 3534 ☎ 0266-27-8003 (三井章義)	平成 8 年 3 月 16 日 ぎん月(下諏訪町) 50 名		
岡 谷	支部長/宮坂久臣(49 回) 副支部長/山岡正邦(48 回) 山岡利行(28 回) ☎ 394 岡谷市郷田 2-1-8 諏訪信用金庫内 ☎ 0266-23-4567	平成 7 年 4 月 15 日 ホテル岡谷 116 名 ◇事業・会計報告		◇定期総会(平成 8 年 6 月予定)
上伊那 (250 名)	支部長/矢島昭(46 回) 副支部長/赤坂良雄(52 回) 常任幹事/木見尻康彦(49 回) 伊藤 隆一(58 回) 矢ヶ崎克彦(64 回) 勅使河原明英(66 回) 林 靖(69 回) ☎ 399-04 辰野町宮木 4083 ☎ 0266-41-0664 (矢島昭)	平成 7 年 6 月 4 日 たつのパークホテル ◇百周年記念上伊那支部自主記念事業の検討	◇中川紀元らの支部物故会員の著書・清陵百年史・ビデオ・同窓会会員や関係団体の刊行物などを小中学校や町図書館に寄贈 ◇コンピューター一式とその運用費を図書館に寄贈	◇定期総会(平成 8 年 4 月 21 日 たつのパークホテル) ◇講演会「『小平物語』をめぐるって」赤羽篤(39 回) ◇上伊那全域での会員の組織強化
松 本 (416 名)	支部長/守矢武久(56 回) 常任幹事/林秀剛(58 回) 朝倉周一(59 回) 藤森邦秀(65 回) 会計監査/千代 務(58 回) ☎ 390 松本市出川 3-5-28 ☎ 0263-26-1039 (守矢武久)	平成 7 年 11 月 11 日 松本信州会館 19 名 ◇会務・会計報告 ◇講演会「薬品業界の現状と問題点」市川兼三(56 回) キッセイ薬品工業(株)取締役	◇新規増加会員の追加(170 名)	◇定期総会(平成 8 年 11 月中旬 信州会館) ◇講演会 ◇名簿の整備・刷新
長 野 (229 名)	支部長/茅野 實(52 回) 副支部長/矢島貞雄(41 回) 幹事/保科東平(63 回) 濱篤(49 回) ☎ 380 長野市小柴見 143-36 ☎ 026-227-0366 (濱 篤)	平成 8 年 2 月 16 日 山王共済会館(長野市) 83 名 ◇事業・会計報告		◇定期総会(平成 9 年 2 月ころ)
東 海 (154 名)	支部長/小山良治(42 回) 副支部長/竹村弘(44 回) 小林 猛(51 回) 平林國男(60 回) 事務局/矢崎武一(52 回) 会計/小松久夫(59 回) ☎ 460 名古屋市中区富士見町 3-26-301 ☎ 052-321-3272 (矢崎武一)	平成 8 年 2 月 3 日 千種会館(名古屋市中区) ◇事業・会計報告 ◇講演会「愛知万博を問う」今井安栄(前県議・弁護士)		
東京清陵会 (4183 名)	会長/小平 祐(42 回) 副会長/小松 誠(42 回) 寺島敏郎(50 回) 事務局長/林尚孝(52 回) ☎ 270-11 我孫子市白山 2-15-2 ☎ 0471-83-2726 FAX 0471-85-8121 (林尚孝) *関東 1 都 6 県にお住いで東京清陵会に登録されていない方は事務局までご連絡下さい。東京清陵会だより第 7 号および総会通知を 9 月にお送り致します。(年会費 600 円)	平成 8 年 9 月 13 日 虎ノ門パストラル(中央区) 317 名 ◇事業・会計報告 ◇記念訪中ビデオ「あお博浪の槌とりて」(SBC 制作)上映 ◇琴演奏鑑賞(前田美智子ら 4 名) ◇テレホンカードを記念品として配布	◇百周年記念ビデオ「清水ヶ丘にうたう」の制作・販売 ◇「東京清陵会だより」第 6 号の発行 *転居等で昨年総会通知が不着だった方は事務局までご連絡下さい。	◇第 30 会総会開催予定(平成 8 年 10 月 25 日 虎ノ門パストラル ☎ 03-3432-7261) 会費/7000 円 議題/年度収支決算、事業報告、役員改選ほか 当番/63 回生、64 回生(サブ) ◇「東京清陵会だより」第 7 号の発行



信州タケヤみそ

株式会社 竹 屋

取締役社長 藤 森 郁 男 (62 回) 専務取締役 藤 森 諄 二 (64 回)

本 社／諏訪市湖岸通り 2-3-17 ☎(0266)52-4000

松本工場／松本市南松本 2-16-22 ☎(0263)25-2552

清陵出てから〇〇年 今じゃ□□の△△で……？

コンパの時に、清涼飲料水（嘘）を廻しのみしながら教師を揶揄して歌いました。

あの時から37年、55歳の同窓会幹事学年の現在、同年生の輩はどのような生き様か？ 諏訪地方に生活をしていない、職業も少し分かりにくい人を、当時希少な女性を含めプロフィールを添えてご紹介します。予想と異なりほとんどの人が平々凡々な生活をしていました。

心に残る清陵バンカラ時代

小林 麻須男(63回)
富士見町神戸出身。
清陵卒業後、金沢大学法文学部に入学し、4年間、北陸の古郡、金沢で学生生活を満喫。昭和40年、神奈川県にある（株）気工社に入社。以来、30数年同社に勤務。この間、清陵以来の持ち前の正義感で、労働組合の役員なども歴任し、現在、営業の仕事で、全国の山や河、荒野を走り廻り、砂利や砂、碎石などを破碎・選別する建設機械、洗った泥水を清浄する廃水処理装置などの製造・販売の仕事に従事している。
趣味は、現在も山登りを続け、音楽やカメラ、ビデオなどにも凝っている。



我々の世代は、卒業が昭和35年(1960年)だから、清陵出てから今年で36年ということになる。この間、大学に行き、会社に入り、結婚し、子供をもうけ、今日まで働いて来たわけだが、私の、大人としての人生のスタートは、清陵高校時代から始まったような気がする。というのは、清陵に入ったとたん、それまでの管理教育時代と違って、何でも自分の判断でやらなければならないようになったからである。

清陵に入って、最初に驚いたことは、通学路で先生方に会っても、誰も、挨拶しないことであった。誰もしないので、我々新入生も挨拶しない、そういう期間がしばらく続いたが、そのうちみんな挨拶するようになった。後でわかったが、何でも、「その先生に、自分が挨拶したいと思えばすればよく、機械的に誰にでも挨拶すればよいというものではない、これが清陵の校風である」と教えられ、なるほどと思った次第である。

ことほど左様に、自分の判断でなんでもやる、結果には自分が責任を持つ。強制的に枠にはめられることや、自由を束縛するものには反発する。自由と自治を尊び、既成の判断や、押しつけを跳ね返し、我が道を行く。これが清陵精神である、と教えられたものである。そんなわけで、私たちの清陵時代は、好きなことをなんでもやったような気がする。コン

パの後、二葉高校へみんなで出かけて行ったり、授業をさぼって運動会を見に行ったり、深志との交歓会では、松本までウイスキーを引っかけて歩いて行ったり、冬山では、やってはいけないという八ヶ岳の岩場を、山岳部の仲間と一緒にほとんど全部（横岳、赤岳、阿弥陀岳などの岩場を）制覇したり、まあ、清陵高校時代は、毎日が面白くてしょうがなかった時代であったように思う。

あんまり遊んでいたもので、大学には、1年位、浪人しなければ入れなかった者も多かったが、しかし、みんな、勉強が嫌いだったわけではなく、当時の清陵生は、家でも通学途上でも、本当に良く勉強したように思う。勉強についていえば、私が、この年になっても、まだ、いろいろなことを勉強したいという気持ちが薄れないのは、遊んでいても何をしても、勉強するのは自分であり、勉強は強制ではなく、あくまでも自主的にするものだという清陵時代の勉学精神が、そうさせているのだという気がしてならない。

もう一つ、清陵高校の自由と自治の校風を守る上で、今でも、忘れられない思い出に、封書開封事件のことがある。当時、よその高校から転任してきたばかりの教頭先生が、学友会やクラブに来る手紙を開封して回してよこすという事件が起こり、さっそく、学友会総会で取り上

げ、止めさせた、という事件だが、事前に学友会の役員とクラブの責任者が集まって、総会で緊急動議を出す人、それを議長がすぐ取り上げること、あれこれ実状を訴えて賛成討議をする人、教頭先生に総会に来てもらうように呼びに行く人など、それぞれ役目を決めてことに臨み、とうとう総会の場に、教頭先生を引っ張り出して来て、謝らせた時など、みんなで喝采を上げたものである。不当な干渉があった場合、みんなで立ち上がり、自らの自由と自治の校風を守りぬく、これも清陵の伝統の一つであったように思う。

ただ、何かにつけて、よく酒を飲んだことは、今でも反省している。コンパや清陵祭の後などに、本金や舞姫に行って1升位買ってきて、みんなでチョットずつ飲むのだが、その程度の酒で、本当に良い気分になったのだから不思議である。当時の滝沢校長からは、「酒はあまり飲むなよ」と言われ続けたように思うが、なぜ「禁止」されなかったのか、これまた不思議な話である。今なら（今でも飲んでいるのかな？）たちまち、先生はもちろん、PTAが警察から一言あるのではないだろうか。このことについては、今でも申し訳ないという気持ちが思い出されるのも、妙な話である。

社会に出て今日まで、大体、このような清陵精神で生きて来たような気がする。管理社会に流されず、自由と民主主義を守りながら仕事をする、それが私の生き方となっている。本音と建て前が違っているのが今日の社会であるが、こんな使い分けにはくみせず、まっすぐ生きて行くのが、清陵精神であり、そんな道を、これからも歩み続けたいと思っているところである。

わがタイトロップ人生

降幡 健司(63回)

岡谷市（岡谷北部中学）出身
1965年（株）総合調査統計研究所入社
1974年同社 退社
この間、青山学院大学アカデミー講師歴任
1975年（株）マーケティング・アンド・アソシエイツ設立 代表取締役就任
1986年システムファーム（株）設立 代表取締役就任
1991年 JANZ PACIFIC LTD（ニュージーランド）設立 取締役就任
著書：「市場調査技法」（日本評論社 共著）他



1カ月のニュージーランド(NZ)出張兼観光旅行から帰ってほとぼりのさめやらぬ2月のある日、同級生の北原重信君よりこの原稿の遅延に対する叱責の電話を頂戴した。

彼からはこの原稿の締切が年末である旨釘をさされてはいたが、1月早々より2月まで日本にいないと免除されるだろうとの読みは見事にはずれた。

当方にお鉢がまわって来たのは、小生がクラスの中で一番面白そうな人生を歩

んで来たから、とのことであるが、面白いどころかタイトロップ人生とも言うべき清陵卒業後の三十数年であった。

最近、清陵の同期生に限らず同年輩諸氏との会合などで、“定年”や“老後”が話題となるが多くなったが、吹けば飛ぶような零細会社を一つならず三つも抱え込んでしまった小生にとっては目下のところ“定年”は棚上げ状態である。

もっとも、ひそかに60歳定年を目標にはしているが、果たして実現し得るものやら。

およそ10年間のサラリーマン生活に終止符を打ち、いわゆる脱サラをしてマーケティング・リサーチの会社を同僚と2人で立ち上げたのは昭和50年であった。

振り返ってみれば、当時日本はオイルショックで景気はどん底状態にあり、脱サラをするについては回りから再三翻意を促されたものの、小生としてはむしろこの機をグッドタイミングと考えたものである。

景気が底の時に会社を立ち上げれば先行きの見極めは早い時点で出来る、万が一失敗しても傷は浅手で済むだろうし、逆にここを乗り切ればその後の景気回復に大いに期待出来るだろう、と読んだわけである。

もう一つ、脱サラを決意したのは32歳という年齢だった。『経験10年、32歳』は、会社の代表者として社会的信用を得る最低条件と前々から考えていた。

この会社は何とか無事離陸出来たものの、今日に至るまでには、会社と一緒に立ち上げた同僚の予期せぬ早世、第二次オイルショックによる経営不振、バブル崩壊に伴う人員整理等々さまざまなピンチに遭遇した。大袈裟に言えばここ20年の日本経済の変動を眼の当りにした感がある。

仙岳

代表 小口 達夫
小口 慶一郎 (84回)
小野 勝子 (87回)

諏訪市湖岸通り5-17-6
TEL 0266 (58) 3515

二葉薬局

井上 彦次 (42回)
井上 優 (72回)
井上 幸彦 (84回)

〒392 諏訪市大手1-3-2
TEL 0266-52-1242
FAX 0266-52-3460

田中クリニック

院長 (外科・麻酔科)
副院長 (内科・小児科)

田中 正利 (第52回)
田中マキ子

諏訪市元町18番11号

☎ (0266) 52-2343

そんな中、昭和 58 年頃小生にとっても一つの転機が訪れた。

当時、オフィスオートメーションの主役としてパソコンが脚光を浴び、急速に普及し始めたが、小生の会社でもそれまで外注していた統計処理業務をパソコンで社内処理する方向を模索していた。

そんな折、取引先からセイコーエプソンのパソコンの営業担当者を紹介されたが、たまたま彼が清陵の後輩であり、エプソンは初の 8 ビットパソコンを発売した直後であった。

そこで、このエプソンのパソコンにより統計処理ソフトを内製することに決め、東京大学理学部や早稲田大学理工学部などの学生の協力を得て、約 1 年後に実務に耐え得るソフトを完成させた。

最終的に外部にこのソフトを販売出来るようなレベルまでバージョン・アップするのに、さらに 4 年程度の年月を要したが、この間協力してもらった学生諸君のプログラミング能力が注目され、前述したエプソンの後輩のすすめもあり、エプソンハードの販売とソフトウェア作成のための会社を、昭和 60 年に設立するに至った。

この会社は、その後設立されたエプソンの販売会社のバック・アップもあり、しばらくは順調に推移した。

この頃、小生は千葉県のある公団住宅に住み、団地のゴルフ同好会の一員として下手なゴルフを唯一の息抜きとしていたが、ある時メンバーの一人から NZ 旅行に誘われた。

彼は以前大手商社マンとして NZ に駐在した経験があり、その当時、世話になったニュージーランダーを訪問するとのことで、この旅行が 3 つ目の会社を設立するキッカケになろうとは、その時は予想だにできなかった。

国全体がナショナルパークといった趣

のある NZ は、我々日本人が容易に溶け込みやすい側面を数多く持ち合わせている。

夏・冬逆転しているものの、日本と同様、春夏秋冬があり、温泉もいたる所に湧出している。富士山とほぼ同じ高さのマウントクックが湖に映る姿は、まさに富士山が諏訪湖に映る姿にも似て、文字通り“山紫水明”の国である。東京の喧噪、雑踏にドップリの小生にとって、日本の 7 割の面積に 350 万人しかいないこのユッタリした環境は羨望的であった。この豊かな自然環境が小生に“60 歳になったら生活の半分は NZ にシフト”させる夢を抱かせてくれた。

思い込んだら分別もなく動き始めるのが小生の悪い癖で、将来の NZ 生活を裏付けてくれる NZ を基盤とした“小遣い稼ぎ”のしくみをあれこれ模索し、2 つのアイデアを実行に移した。

当時、日本はバブル景気最高潮といった時期にあり、企業は優秀な若い人材確保のため、独身寮・社宅さらには保養所など厚生施設に対する設備投資を盛んに行っていた。

一方、NZ では一般住宅の売買が頻繁に行われており、日本では何億もするような敷地 300 坪程度の住宅が 2～3000 万円で購入できる。

ここに着目し、NZ の住宅を日本の企業や個人の別荘・保養所として斡旋し、これをメンテナンスする会社をノースアイランドのタウランガに設立した。

もちろん、この会社は NZ 法人として登記し、現地に私を誘ってくれたゴルフ仲間が市民権を取得して常駐した。

設立してすぐ 3 社と契約し、現在もこれら企業の保養所のメンテナンスを行っている。

また一方、最初の NZ 旅行で立ち寄ったステーキハウスで、生ビールのつまみ

として出されたガーリック・トーストの何ともいえない香ばしい味が忘れられず、日本に帰ってからガーリックマーガリン、ガーリックバターを求めたが、当時日本では手に入らなかった。

そこで、翌年再び NZ に行った折、そのガーリックマーガリンを製造している食品メーカーを訪問し、日本に輸入する商談をすすめ、現地に設立した会社を窓口として、日本のソフトウェアの会社の中に NZ 事業部なるセクションを設け、食品輸入部門を立ち上げた。

その後、この食品メーカーとは、日本における総代理店契約を結び今日に至っているが、この会社が、現地に設立した会社と同じタウランガにあったことが大いに幸いした。

この NZ の会社を立ち上げて間もなく、バブル崩壊の洗礼を直に受けることになったが、3 つの会社のうち最も打撃が大きかったのはコンピュータ会社であった。

たった 1 年余りで売り上げは何と 8 割減にまで落ち込み、ダメージが最も少なかったマーケティング・リサーチの会社からの資金投入で乗り切ろうとしたものの、業績回復には至らず、むしろリサーチ会社も共倒れの危機に直面した。

そこでソフトウェア会社のコンピュータ部門を整理・撤退し、食品輸入部門だけを残したが、会社経営にたずさわって 20 年、このコンピュータ部門の社員に身を引いてもらった時ほど、経営者としての無力さを実感したことはない。

NZ の会社も、初期の目論見であった別荘や保養所のメンテナンス業務は、バブル崩壊で一頓挫しているものの、遊び心で始めた食品輸入関係業務が、予想以上の業績を上げられるようになったのは嬉しい誤算であった。

これによりソフトウェア会社も何とか

食品輸入会社に転換することが出来た。

あっという間の清陵卒業後の三十数年であるが、思えばコンピュータの会社のキッカケを作ってくれたのも、現在お世話になっている公認会計士も顧問弁護士も、いずれも清陵の同窓生である。

よきかな、清陵同窓生。

清陵 巨理 美代子(63 回)

1942 (昭和 17) 年 2 月 1 日、東京、小石川にて出生。昭和 20 年 3 月、疎開して諏訪中洲の住民となる。日本女子大学国文学科卒。雑誌編集部にて 3 年余勤務の後結婚。2 児の母。

わが青春



人生の記憶の糸をたどる。初め鮮明なそれは次第に細くなり、やがて闇に紛れる。その中に淡く、幽かに、おのずから

発光しているかのような箇所があって、その辺こそが、我が青春時代ではないかと思うのである。

中学生までは、いじめられっ子であった。幼い頃“疎開っ子”と呼ばれたのに始まり、少々進んだ考え方とか先生のヒイキとかは、格好の標的となった。農村的な因習は子供達にも反映していたから、高校に入って、あまり相性の良くない女性集団から抜け出せた時は、正直ホッとした。昭和 32 年入学 270 名余の中、女生徒は 5 名。もちろん大学進学を考えて清陵を選んだわけであるが、その雰囲気が好きだったからでもある。少数派として目立ちやすいというマイナスはあったけれど、担任の今井玉寿先生は、さりげなく自然に平等に扱って下さった。それ故、あまり異和感なしに、クラス仲間・同志として受け入れられたように思う。諏訪湖一周マラソンは 2 回完走したし、女優不足だからと請われて参加した清陵祭の演劇、牛山正雄先生に特訓を受けた端艇など思い出はつきない。

大学は一転、女性ばかりの所へ入ってしまったが、充実した楽しい 4 年間であった。なかでも寮生活では、多少の不自由や妥協はあったものの、さまざまな人との出会いがあり、いわゆる同じ釜の飯が取り持つ親しい友人を、大勢得ることが出来た。また、国文学科には清陵の大先輩の五味保義・五味智英両先生が居られ、特に保義先生には短歌研究会や卒業論文でも御指導いただいた、同窓の縁を嬉しく、有り難く感じたものである。

大学時代、男性ばかりの高校出身とわかると、「それじゃあさぞモテたでしょう？」と聞かれるのには困った。高校時代の私は、世の人が求める女らしさというものには反発していたし、気も強く、“ラブレターを出したら誤字が赤ペンで訂正され戻って来た”“先生に告げ口され

てテストの点が減らされるぞ”などと軽口を言われ、敬遠されてか、モテなかったのは確かである。(私の清陵在校時、父矢澤克は世界史担当。その父も今年 7 回忌を迎える…)

学園祭の応援に他大学の男子学生を頼んだ時、「女子大では男性であるというだけで優遇してくれるのに、矢澤さんは醒めた眼をしていて怖い」と言われたことがある。そんなことから男性の友人は結構いたのに、恋愛には縁がなかった。我が青春に少々悔いありである。

卒業して能楽雑誌の編集部員となった。幼い頃から音楽は大好きだったが、大学での能との出会いは職業につながり、趣味として現在まで続いている。ただその頃は、女性は結婚すべしという社会的圧力が強かった時代で、独身生活にも仕事にも未練を残しつつ、3 年余りで寿退職してしまった。平凡な見合で、姑は厳しいことで有名な母校食物学科の教授であった。が、まさに縁は異なもの、人には添うてみよで、ケンカしながらも、はや銀婚式も過ぎ、子供達も社会人である。俺が我慢強かったからだとは言うが、新婚旅行のグアムの空をベトナム指して B 52 が飛び、1 ドルが 360 円であったことを思うと、歳月の重さを感じずにはいられない。

テレビで「生まれ変わってもまた今の相手と結婚しますか」というのをやっていた。私は、「否」である。生まれ変わるのなら、断然男性になりたい。男として清陵に入り、端艇部か山岳部だ。夫とは飲み友達なんていうのが良い、などと言ったら大いに笑われた。

齢五十を過ぎ、可愛かったはずのミヨちゃんも、息子に言わせると“容姿の不自由なオバサン”である。が、健康であれば凡庸がかまわない。未来も希望も体力もまだある。高校の仲間とは、これか

整形外科 外科 産科 婦人科

立 木 医 院

立 木 正 純 (38 回)

(日本体育協会公認スポーツドクター)
(山本喜市先生顕彰碑保存会会長)
(「青木末弘杯」記念カーリング大会大会長)

立 木 委 枝

〒392 諏訪市諏訪 1 丁目 22-24
電話 0266-52-1074



株式会社

ダイヤ精機製作所

本社工場 岡谷市小井川 7 9 7 8

TEL (0266) 27-7733 (代)

営業所 東京都杉並区善福寺 3-10-2

TEL (03) 3399-0685 (代)

精密機器製造
工作機械用ツール

代表取締役 小 口 成 人 (44 回)

取締役 武 田 吉 清 (61 回)

取締役 小 口 禎 三 (36 回)

監査役 植 野 忠 道 (41 回)

水 晶 時 計

株式会社 カカホ

長野県茅野市宮川 4900 ☎(0266) 72-6111 (代)

アメリカ工場……ロスアンゼルス バンコク工場……タイ国バンパイン工業団地

自動組立機の

マイクロエレクトロニクス株式会社

長野県茅野市金澤 5387-1 ☎(0266) 72-6551 (代)

らも良い友人であり続けたい。清陵は、私を励ましてくれる青春の心の源であり、大切な故郷である。

千万人といえども……

宮坂 尚利(63回)

1965年早稲田大学法学部卒、日刊工業新聞社編集局へ入社。記者時代は電子、機械、自動車産業などを担当、運輸省クラブ詰めを経て78年から4年間長野支局長。編集局次長、広告局長を歴任し95年7月から取締役出版局長。趣味はゴルフ、読書、音楽鑑賞および競馬観賞。妻と一女一男で東京・国分寺市在住。諏訪には実家一軒と実母一人、親戚多数。



「お生まれはどちらですか」
「信州は諏訪です」
「諏訪には勤勉な方が多いそうですね」
「まあ、そうですね」
「理論家ぞろい自立心も強いとか」
「いや、例外もいますよ。私みたいに…」

◇ ◇

母校・清陵への坂道にお別れして35年、どう脚色したところで“凡々たる”の表現しかできない我が人生の歩みの中で、わずかに自慢できるとすれば、仕事柄さまざまな階層にわたって知遇を得た人の数くらいのものだろう。それらの人々との出会いの際に出身地を尋問されるのは世の常としても、この35年間の信州人、わけても諏訪人に対する世間一般のイメージの不偏かつ不変さにはいささかにへき易した。

中で、勤勉なる言葉あたりは、生来の怠惰なわが身への皮肉として聞き流せても、理論とか自主とかには大なる反発を覚え続けてきた。いかな世辞を込めた善意の口から発せられようと、理論家は「屁理屈こき」に、自立心は「協調性不足」にころりとひっ繰り返り、つまりは「なんとまあ付き合いづらい人種に遭遇してしまったものだ」という相手の当惑がピリリと肌を刺す気がしたもの。記者生活を振り出しに広告、出版とマスコミ界の端くれで人との触れ合いを業としてきた三十余年、怠惰はいや応なしに維持しながら、とにかく「理屈はこかない、自我は通さない」を座右の銘に、こうした人種偏見から身を守ることに努めてきたつもりである。周囲から「諏訪人らしからぬ」の評をけっこう賜っていたのも、まずはそれなりに効を奏したのではなかろうか。

ところが昨今、これら諏訪人評に対する敵がい心がめっきり薄れてきた。もとより、齢五十有余にして会社勤めの終着駅もほのかに見えはじめ、肩ひじ張っての八方美人生活に必然性が失われつつあることも一因だろう。加えて、反発心を生み出す底流に、最近まで残っていたと思われる35年前の、井の中から大海へと泳ぎ出た“青蛙”のあの気負いが、人生の年輪に徐々に埋もれた結果だとも考え

られる。

そういえば、かつては良かれ悪しかれ何かと感情を揺すぶられた世の中の事象の多くが、このところ胸の中をすっと通り過ぎていってしまう。そして、森羅万象に対する感受性の薄れに気づきがく然とする日々が重なるようになってきた。かなり前から肉体的にはここかしこに現われはじめている“金属疲労”が、悲しいかないよいよ心の中にも及んできた証左なのだろうか。

◇ ◇

この正月、久々の家族団らん場で屠蘇を片手にこんな話をひとくさりしたとたん、異郷人の家内はもとより、半分は当方の血が流れているはずの子供たちからも「それぞれ、その理屈っぽさが諏訪人の諏訪人たるゆえん」と鋭い指摘を受けてしまった。なるほど、ごもっとも。どうやら、35年間かぶり続けてきたつもりの仮面も、少なくとも身内の中ではほとんど役に立たなかったようだ。

このうえは、改めて母校の「千万人といえども吾往かん」の精神のもとに、故郷の墓に至るまでの残りの人生、自然体にて進まんと思つづく思う今日この頃ではある。



コンパの後、二葉校門前で(写真提供/小林麻須男)

品質一筋

『品質本位』——創業以来三三〇年の節目を迎えた今、私たちは敢えてこの言葉を社是として掲げます。それは、『品質が全てに優先する』という信念こそ、先人達が育んだ最大の財産だと考えるからです。

長野県内では抜群、全国でも屈指の品評会入賞歴を誇る酒蔵として、また全国過半数の酒造メーカーで品質向上に



貢献する『協会7号酵母』の発祥蔵として、真澄は常に品質の頂点に迫ることだけを念じて来しました。

外見を飾ることも奇抜な個性で人目を引くことも苦手です。原料米を吟味し、技術や設備を常に最高の状態に磨き、そして地味だけれども文句無しに旨い酒を醸し上げる、そんな真澄らしさを大切にしながら、私たちはこれからも銘酒造りに心血を注いで参ります。

もろ州が生んだ天下の銘酒
真澄
マスミ

わがはみ出し人生

増澤 文武(63回)

昭和35年諏訪清陵高校卒、第63回生。昭和40年金沢大学工学部工業化学科卒業。同年、大日本塗料株式会社中央研究所勤務。昭和47年7月同社退職、財団法人元興寺弘教民俗資料研究所(財団法人元興寺文化財研究所)入所

現在：同研究所評議員・保存科学センター長

趣味：男性合唱団団員の他は無芸大食(糞だか腹が出てきたま！)



清陵卒業後工学部に進学、民間企業に就職した6年目の正月休み、奈良への旅がその後の人生を変えた。なぜ奈良かというと、松本権重氏の案内された清陵の修学旅行の強い印象だったと思う。昭和47年の元旦に猿沢池の南、元興寺極楽坊に立った。半月後「古墳などから出土し錆と化した鉄刀や甲、青銅鏡などの金属器や、地下水のあるところから出土し、焼き豆腐のように弱く柔らかい弥生時代の木製の杵や鍬の柄などを、何らかの処置を施して後世に残さねばならない。そ

の技術は国立の機関で研究しているが、実際に実施する所を求めている。元興寺の研究所がそれをしたい。技術者を探している」との話を聞いた。元興寺について調べると、大変な名刹で奈良時代の官寺であった。しかし、研究所自体は創立5年で歴史も浅く、研究員の生活もままならない状況であった。

したがって、出土品の保存処理・修復を行うための応用研究を行い、保存処理施設を建設することがまず第一であった。民間でこのようなことが可能だろうか？ 半年悩んだ後、住職の熱意にも動かされ7月奈良に移った。住職のお供で何度も県庁や文化庁に赴き、陳情すると同時に、関西財界の寄付を仰いで建屋と設備を整え、更に各種補助金により拡充して、今日に至っている。

しかし、順風満帆であった訳ではない。むしろ立ち上がりからして大変であった。実験台1つのみの研究室では、発注しても物がなかなか届くことはなかった。幸い、昭和49年度に建設費として補助金がついたが、予算申請の半額しか認められない上に、第一次石油ショックで建設費は二倍に跳ね上がった。懸命に設計をやり直し、削るものは削って切り抜けた。それでも鉄筋コンクリートのビルが建ち、装置が入ると、今までそっぽを向いていた業者がとたんに取引を求めてくるといふ、芥川龍之介の「杜子春」の心境を味わった。

その後、埼玉県稲荷山古墳出土『辛亥銘鉄剣』と島根県岡田山古墳出土『額田部臣銘鉄刀』の錆に埋もれていた象嵌文字を発見した。特に前者は西暦471年の絶対年代を与える“辛亥年”の記年銘と、雄略天皇を表す文字があり、歴史上謎の5世紀といわれる時代の重要な歴史資料を提起することとなった。これらの研ぎ出しに成功し、それぞれ国宝と重要文化

財に指定された。

この二つとも新聞の一面に掲載されたが、そのとばっちりもすさまじいものがあった。前者はそれ自体の真贋の問題で、某大学の先生が「5世紀の日本にそのようなものがあるはずがない。それは筆者がでっち上げたものだ」という文を有力紙に発表し、また、某テレビ局の報道特集は「文字の研ぎ出しと修復にあたって、事実を曲げて文字を作り得る、あるいは作ったかもしれない」というものであった。また、新書の中で『修復という名の破壊』とまで書かれて糾弾された。しかし、これらの保存処理・修復のための委員会が設置され、その委員には考古学、古代史、金工史などの研究者、象嵌製作者に加えて、実際に現物に接してきた我々が、一緒になってX線フィルムを見、顕微鏡などを用いて検討し、修復したものである。それぞれ、余りに生々しい遺物の存在とそれに取り組む熱気の中に「贋物を作る、あるいは曲解して文字を作る」など思いもよらぬことであった。

しかし、最初の『辛亥銘鉄剣』のX線透過写真を撮影しフィルムの文字を見て私が暗室を出るとき、「字が出た」と大声を出して飛び出し、それを聞いた他のメンバーが、「血が出た」または「痔が出た」と勘違いしたという話まで掲載されたが、本人にはその記憶がない。

話は変わるが、恐らく今までに上述の2点を含み、十数万点に上る出土遺物、民俗文化財、古文書などの保存処理・修復に携わってきたと思う。諏訪は縄文遺跡のメッカであり、考古学の泰斗や研究者を輩出している中で、小生は清陵で日本史を受講していない。我国の文化財と技術の狭間に身を置くわが身に不思議さと同時に恥ずかしさを思う。奈良に来て、はみ出たままの人生を送り、足掛け25年を経る。

ご子弟の免許取得には

(東京方面の方は20日間で卒業できる

合宿教習で)

長野県公安委員会指定

茅野自動車学校

茅野市宮川5299番地 ☎ 0266-72-4111

代表取締役 矢崎 斉 男 (51回)

代表取締役 新 村 良 雄 (四九回)
新 村 隆 (八五回)
下諏訪町四角
☎ (〇二六六) 二七七八五〇五

諏訪サバイブ
不二屋もたぎ